

文部科学省 多様な学習を支援する高等学校の推進事業

「つなぐ」徳島プロジェクト ～「支援・相談」でつなぐ生徒の未来～

平成28年度研究成果報告書

徳島県教育委員会

研究拠点校 徳島県立徳島中央高等学校
協力校 徳島県立徳島科学技術高等学校
協力校 徳島県立富岡東高等学校
協力校 徳島県立鳴門高等学校
協力校 徳島県立名西高等学校
協力校 徳島県立池田高等学校

研究成果報告書 目次

○ 巻 頭 言

- 【1】「つなぐ」徳島プロジェクト ～「支援・相談」でつなぐ生徒の未来～ …… 1
- 【2】本年度の取組
 - 1) 高等学校定時制通信制課程支援相談員（支援相談員）の活用 …… 6
 - 2) 特別な支援を必要とする生徒への支援 …… 10
 - 3) 就労支援 …… 19
 - 4) ソーシャルスキル向上支援 …… 32
 - 5) 学力向上支援 …… 47
 - 6) その他 …… 57
- 【3】検討会議の概要 …… 60
- 【4】平成28年度の成果と今後に向けて …… 67

巻頭言

多様な学習を支援する高等学校の推進事業 「つなぐ」徳島プロジェクト ～「支援・相談」でつなぐ生徒の未来～

徳島中央高等学校校長 小山 茂美

定時制通信制課程で学ぶ生徒たちの多様化する学習ニーズに対応し、生徒個々の状況に即した支援を行うため、徳島県では平成27年度より文部科学省の指定を受け「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」に徳島中央高等学校を中心として取り組んでまいりました。

1年目は徳島中央高校を拠点校に、徳島科学技術高校と名西高校を協力校として研究をスタートさせ、

- 1 「つなぐ」支援体制の構築
 - 2 特別な支援を必要とする生徒への支援
 - 3 就労支援・ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援
- の3つのテーマで研究を行いました。

2年目となる平成28年度からは、1年目の成果や課題を踏まえ県内の全ての定時制高校で取り組むこととし、それぞれの高校が抱える「多様な生徒」に対する支援の方法等について研究を進めました。

この報告書は、平成28年度に各学校においてそれぞれの実情に応じて取り組んだ内容をまとめたものです。様々な角度から多くの人々のご意見を聞かせていただき、改善につなげていきたいと考えております。

最後に、この調査研究を進めるにあたり、多大な御支援をいただいております文部科学省、徳島県教育委員会、検討会議委員をはじめ、関係諸機関の皆様には厚くお礼申し上げ、報告書の巻頭言といたします。

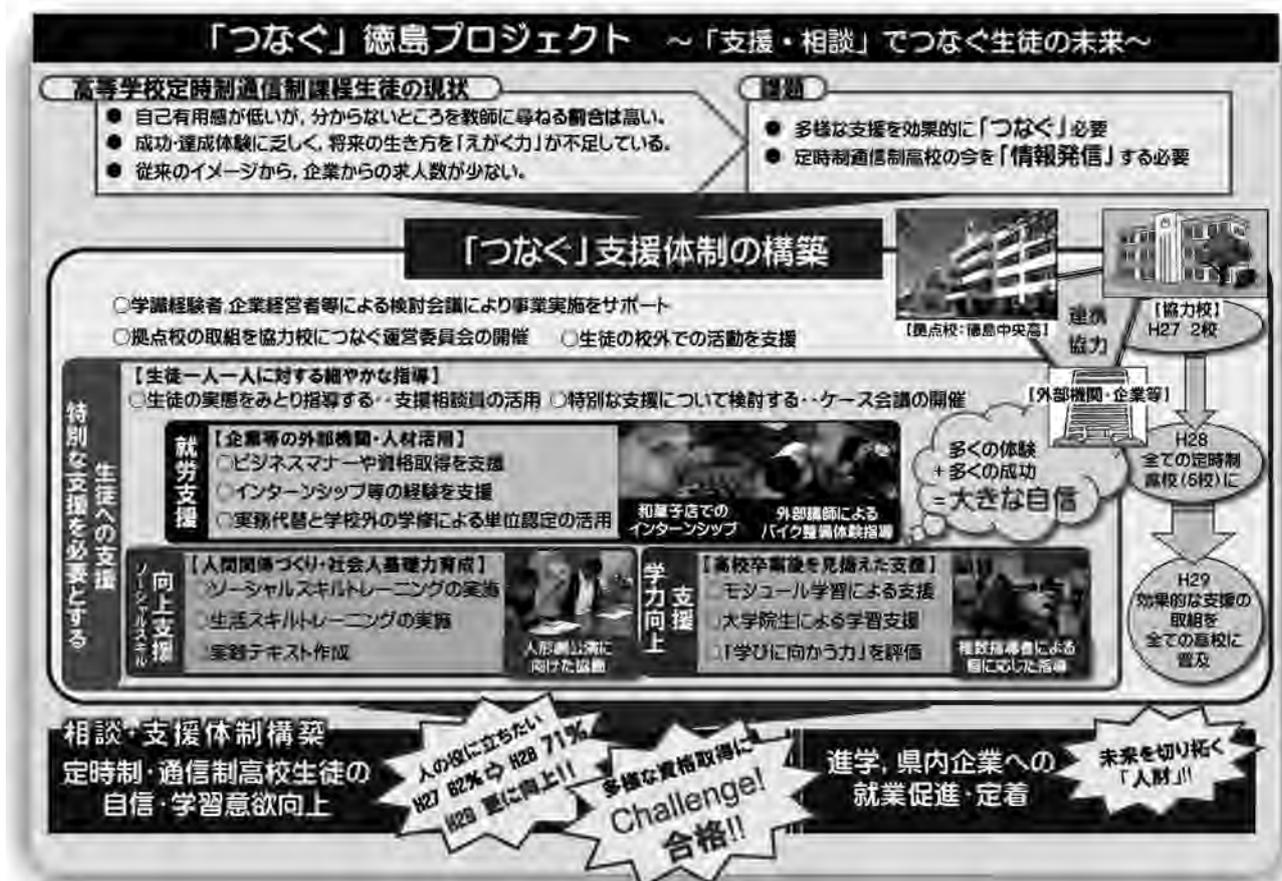
【1】「つなぐ」徳島プロジェクト ～「支援・相談」でつなぐ生徒の未来～

1) 研究指定期間3年間の調査研究のねらい

人口減少が急速に進む徳島県において、高等学校生徒数も同様の傾向がみられる中、定時制・通信制課程生徒に占める特別な支援等、何らかの支援を必要とする生徒の割合は増加している。また、本県独自の調査（毎年度7・8月実施）によれば、平成26年度は高校生全体と比較して定時制生徒の自己有用感の割合は約13ポイント低い。反面、授業で分からないところがあれば「教師に尋ねる」とする生徒の割合は、高校生全体と比較すると約10ポイント近く高く、学習意欲向上に対する教師の働きかけの有効性が強くうかがえる。

一方、本研究拠点校のうち定時制課程では、意欲的に学習に取り組む生徒の割合は60%程度であり、学校生活を生き生きと続けていくためにも、この割合を高める必要がある。

そのため、徳島県で唯一の定時制・通信制課程独立校である徳島中央高等学校を研究拠点校（以下、拠点校という）に据え、初年度（平成27年度）は近隣2校を研究協力校（以下、協力校という）に指定、平成28年度以降は県内の定時制課程を有する他の全ての高校を協力校に指定し、生徒の実態に応じた実効力のある支援・相談体制の構築を図る。各学校の多様な生徒に対応できる学習支援・相談体制を構築することで、ケーススタディとして恒常化し、より生徒個々の状況に即した支援を図る。生徒の実情を踏まえた支援につながるテキストの作成、支援相談員を活用し、関係機関と連携した綿密な就労移行支援を実施し、それに伴う生徒の学習意欲向上、自己有用感の上昇を在学中・卒業後の就労等につなげ、地域を支える人材育成を調査研究の課題に設定する。



2) 研究指定期間3年間の調査研究の内容

徳島県内の定時制課程・通信制課程で学ぶ全ての高校生が自己有用感を持ち、社会における自己の役割を自覚し、職業人として活躍できる人材として成長するため、徳島中央高等学校を拠点校とし、他の5校を協力校とした支援・相談体制を確立する。

前提として、平成26年3月に策定された「徳島県キャリア教育推進方針」に則り、社会的・職業的自立に向け必要な基盤としての基礎的・汎用的能力の育成を図るための、入学時から卒業までを見通したキャリア教育全体計画や、平成27年度の拠点校での支援実績を踏まえ、それぞれの高校の独自性を生かしつつ、支援の汎用化の可能性についても検証する。

本事業では次の3項目を調査研究内容とする。

(1) 「つなぐ」支援体制の構築

a 「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」検討会議

キャリア教育専門家（鳴門教育大学大学院教授・講師）、関係機関の職員、企業経営者からなる委員と管理機関担当（定通教育担当、キャリア教育担当等）、研究指定校教職員等からなる検討会議を開催。委員の指導を受け、本事業の計画検討及び実施評価を行う。

b 「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」運営委員会

研究拠点校と研究協力校との取組を「つなぎ」、抱える課題や外部機関との連携を含む効果的な支援の共有・深化を図る。

(2) 特別な支援を必要とする生徒への支援

a 定時制課程・通信制課程支援相談員（以下、支援相談員という）の活用

研究拠点校に配置し、特に発達障がい等何らかの支援を必要とする生徒に対し、個別の指導計画作成のほか、支援相談員の指導・助言を受け、教職員とともに教科学習、総合的な学習の時間、特別活動、放課後での支援等を総合的に組み合わせた社会への移行支援を推進する。近隣地域にある協力校2校に支援相談員を派遣し、3校が連携して支援相談体制の構築を行う。

b ケース会議の開催

事案に応じて県立特別支援学校の巡回相談員、就労移行支援事業所専門員等の参加による生徒の実態に即した支援方法の検討を実施する。

(3) 就労支援・ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援

平成27年度に、徳島中央高等学校3課程が取り組んだ就労支援、ソーシャルスキル向上支援、学力向上支援について、運営委員会等を通じ、情報共有を図る。その取組において得られた成果と課題を踏まえ、各研究協力校では、それぞれの生徒の実情に応じ、必要かつ重点を置く支援について平成28年度以降の取組を行う。引き続き徳島中央高等学校は取組の充実・深化を図るとともに、協力校との情報共有を図る。

3) 研究指定期間3年間の調査研究の目標

調査研究各項目の有効性有用性を整理、客観的に検証し、定時制・通信制課程生徒の抱える共通の課題を解決するための対応策として汎用化の可能性について検討する。数値化して評価することが適切でないソーシャルスキルトレーニング（SST）等ではパフォー

マンス評価，ルーブリック評価等の手法を用いながら，各学校での支援・相談体制の充実・深化策の検証を行う。平成28年度からは，目標を次のとおり設定する。

就労支援・・・

事業場見学等参加者のうち，後の就労につながった割合(定時制・通信制課程全体)

H27 40% 最終目標60%

就職率(定時制・通信制課程全体)

H27 60% 最終目標80%

ソーシャルスキル向上支援・・・

夜間部カフェ参加割合(徳島中央)

H27 40% 最終目標60%

自己有用感あり(徳島中央)

H27 60% 最終目標80%(中央)

(定時制・通信制課程全体)

50% 全日制課程と同値

学力向上支援・・・

学習意欲(徳島中央)

H27 70% 最終目標90%

(定時制・通信制課程全体)

65% 全日制課程と同値

通信制課程コンテンツ教材活用率(NHK高校講座視聴を含む)

H27 10% 最終目標20%

4) 平成28年度調査研究の具体的内容等

(1) 「つなぐ」支援体制の構築

a 「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」検討会議

委員の指導を受け，本事業の計画検討及び実施評価を行う。

第1回 今年度の体制・取組計画についての協議

第2回 徳島県高等学校定時制通信制教育連盟美術作品展視察により，効果的な成果の普及広報についての協議

第3回 平成28年度の取組報告と平成29年度実施に向けた協議

b 「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」運営委員会

調査研究拠点校として徳島中央，協力校として徳島科学技術，名西，新たに富岡東，鳴門，池田の各高等学校定時制課程を位置付け，徳島県内の全県立高校定時制通信制課程を対象として開催する。教頭等による運営委員会を設置。遠隔校を含むため，既存の定時制通信制課程の教頭による連絡会等を活用し，全校が連携して事業の円滑な運営を図る。

また，同じ課題を共有する学校間で教員向けの研修会を実施するなど，教員の指導力向上を図る。

(2) 特別な支援を必要とする生徒への支援

a 支援相談員の活用

引き続き拠点校では，特に発達障がい等何らかの支援を必要とする生徒に対し，個別の指導計画作成のほか，支援相談員の指導・助言を受け，教職員とともに教科学習，総合的な学習の時間，特別活動，放課後支援等を総合的に組み合わせた社会への移行支援を推進する。近隣地域にある協力校(徳島科学技術，名西)に，支援相談員を派遣し，3校が連携して支援相談体制の構築を行う。

b ケース会議の開催

平成27年度に引き続き事案に応じて県立特別支援学校の巡回相談員，就労移行支援事業所専門員等の参加による生徒の実態に即した支援方法の検討を実施する。

(3) 就労支援・ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援

平成27年度は徳島中央高校3課程が取り組んだ就労支援，ソーシャルスキル向上支援，学力向上支援について，運営委員会等を通じ，研究協力校2校との情報共有を図った。その取組において得られた成果と課題を踏まえ，平成28年度は全研究協力校で，それぞれの生徒の実態に応じ，必要かつ重点を置く支援について実施する。引き続き徳島中央高校は取組の充実・深化を図るとともに，全協力校との情報共有を図る。

a 就労支援

徳島中央高校夜間部では，平成27年度に学校設定教科「職業」を開設。生徒全員に対して就業体験を課し，インターンシップや就労を実務代替・学校外の学修の単位として認定する新たな制度を導入した。学校設定科目「職業基礎」の平成27年度単位修得率は7割であり，未修得の要因として必須とした就業体験へのハードルが高いと感じた生徒にみられたことが挙げられている。夜間部カフェでの校内就業体験の取組は，特定生徒を中心に運営され，ソーシャルスキル向上にはつながったものの，就労支援としての生徒全体への広がり不足した。この結果を踏まえ，平成28年度は生徒の職業観や，就業体験に向けた心構えなどを身に付けさせるためのテキストを作成予定している。同昼間部では「とくしま中央一座」の取組から，就業場面を演じることでの模擬就業体験の有効性が検討会議において指摘された。平成28年度は全生徒が体験できるプログラム化を図ることとしている。

また，拠点校・協力校での支援相談員の見取りから，平成27年度の検討会議ではインターンシップ，アルバイト就業等に先立つ職業観の不足が指摘されている。平成28年度は事業場見学，企業家による出前講座や講習等の職業観の育成に向けた取組について，生徒の状況が異なる全研究拠点・協力校での実施を計画，成果について分析を行う予定である。

b ソーシャルスキル向上支援

徳島中央高校昼間部で取り組む「とくしま中央一座」「絵本の読み聞かせ」実践の活用について検討会議での意見を踏まえ，平成28年度は，多様な活躍の場の提供及び活動実績の普及広報を兼ねた上演先の開拓及び実施（更なる人間関係形成・社会形成能力の育成）や演じることによるSST，生活スキルトレーニング（LST）の実践及びカリキュラム化に向けて充実・深化・拡大を予定している。なお，夜間部カフェのソーシャルスキル向上支援としての有効性は，(2)の支援との相乗効果が引き続き期待できる。

また，各協力校も拠点校の取組と各校生徒の実態を踏まえ，効果的な支援を行う。

c 学力向上支援

徳島中央高校では大学院生等による「放課後支援」・モジュール学習等を実施する。特に通信制課程ではweb学習可能な教材コンテンツを作成し，HPに掲載している。出張スクーリングや学習相談日を実施する等，引き続き充実させ，学習を支援する。ソーシャルスキル向上支援とともに高校卒業を見据えた就労を支える支援として充実を図る。

また、各協力校も拠点校の取組と各校生徒の実態を踏まえ、効果的な支援を行う。

5) 平成28年度調査研究の効果測定について

相談体制の実績については、平成27年度の相談生徒人数を母数として引き続き把握を行うが、各生徒に対する有効性ある効果について、平成27年度は「就職試験に不合格となってもあきらめずに複数回挑み、合格した」事例（拠点校・協力校）「授業中の関心・意欲の高まりが認められた」事例（協力校）「2学期に入り欠席日数が減少した」事例（拠点校）等が認められ、平成28年度も引き続き把握を行う。

就労支援については、新たに実施する職場見学・企業家による出前講座や講習等職業を「知る」取組への参加とともに、引き続きインターンシップ参加、バイターン実施、在学中の有職者数、卒業時の就職率等を把握し、その推移により効果の分析を行う。学力向上支援・ソーシャルスキル向上支援については、平成27年度の見取りの成果を分析し、定時制通信制課程に汎用化可能な各教科等における行動による評価（パフォーマンス評価、ルーブリック評価等）可能な場面における評価規準例を作成し、生徒の学習意欲の伸長を把握し、その推移により効果の分析を行う。

自己有用感については、就労支援・ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援の複合的効果が考えられるため、各支援を受けた生徒の自己評価に加え、本県独自調査「生徒の意識等に関わる調査」（毎年7～8月実施 2月結果公表）結果を引用する。平成27年度結果は平成26年度と同数値（1年50%、2年52%）で、依然として全日制課程より低い状況にあるが、学年進行により全日制課程が変化なしであるのに対し、定時制課程では増加している点を評価し、今後の分析・検証を行う予定である。

特に「とくしま中央一座」を活用したソーシャルスキル向上支援については、本事業検討会議委員の鳴門教育大学大学院学校教育研究科小坂浩嗣教授の協力を得て、「思いやる心の育成」を目的として「シェアリング法」による実践とワークシートの記述と授業での関与観察の記録から生徒の変容を読み取る定質分析と、自尊感情を指標に3観点（自己評価・自己主張・関係の中の自己）を測定分析する定量分析を行う予定である。

【2】本年度の取組

1) 高等学校定時制通信制課程支援相談員（支援相談員）の活用

① 徳島中央高等学校（拠点校）

- 1 支援相談員の勤務時間 水曜日 14:00～21:45（7時間）
木曜日 12:00～19:45（7時間）
日曜日（通信制課程のスクーリングにあわせて）

2 支援活動実績（1月末現在）

相談回数	支援回数	授業参加	会議出席
92回	85回	12回	8回

3 具体的な支援内容

- 相談 生徒の就業相談・生徒の進路相談（保護者面談含む）
教員の生徒に対する指導の相談
教員の生徒に対する特別支援に関する相談
- 支援 キャリア支援（職業適性検査やエゴグラム等で自己理解を促しながら）
履歴書の書き方指導，各種志願書等の書き方指導
面接指導（進学・就職・アルバイト）
- 授業 特別活動〔進路説明会〕（通信制課程）
マルチ基礎（夜間部）
- 会議 個別のケース会議
学年会
生徒支援スキルアップ勉強会

4 これまでの効果

【定時制課程夜間部】

卒業予定者の進路相談や履歴書指導，面接指導などの進路に関する支援をはじめ，生徒の対人関係の悩み相談等に対応している。また夜間部カフェでは，生徒とともに軽食をとることなどから，生徒から仕事やアルバイト等に関する心配事等を聞くことができている。

1年生開講の学校設定科目「マルチ基礎」の授業では，複数の教員とともに指導し，生徒の学習意欲の向上や基礎学力定着の一助となっている。

【定時制課程昼間部】

就職や進学についての生徒や保護者に対する進路相談では，教員による指導と相まって，情報を共有することで，生徒への理解を深めることができた。特に3・4年生では生徒自身の自己理解を促すことができ，主体的に進路決定を行うことができるよ

うになった。就職や進学等の面接練習や試験準備指導により、生徒の精神面での成長や対人スキルの獲得を促し、生徒の自尊感情を高めることができている。

【通信制課程】

入学に至るまでの事情、年齢、居住地などが多岐にわたり、学力差も大きい生徒が混在する中、個別指導で対応せざるを得ない状況でカウンセリングの重要性はいうまでもなく、支援相談員の協力は心強い。本校通信制課程は、日曜と木曜にスクーリングを実施し、それぞれ別の生徒が登校している。定時制課程と授業時間が重なる木曜スクーリング生だけでなく、日曜スクーリング生にも月に数回、対応している。

生徒向け日報「今日のお知らせ」や担任を通じて相談の呼びかけを行い、本年度は、生徒9名、保護者1名、のべ20回の教育相談・指導を行った。1回で終わった生徒もいるが、就職希望者については2回～5回、相談や指導を行うことができた。関わった就職希望者6名のうち、5名は内定を得ることができた。

担任・進路課とは、違った視点・アプローチで生徒に対応し、担任などが知らない一面を指摘してくれた。感情的になる生徒もいたが、その生徒も、その後、何回も通っていることから、生徒も心を許し信頼関係を築いていることがわかる。

5 今後の方向性について

3課程を通して自己肯定感の低い生徒が多く、自信を持って諸活動に取り組めていない現状である。また発達障がい等を抱える生徒の入学も増えているため、多様な支援を要する生徒一人一人の支援内容も様々である。個別の支援についてケース会議や指導計画の作成など、引き続き教員と支援相談員が連携し、取り組んでいく予定である。また生徒の就業指導については個別の指導を継続すると共に、外部機関とも連携し有効な支援方法についても、ともに検討していく予定である。

② 徳島科学技術高等学校定時制課程（協力校）

1 支援相談員の勤務時間 火曜日 18:00～21:00（3時間）

2 支援活動実績（1月末現在）

相談回数	支援回数	授業参加	会議出席
26回	5回	17回	3回

3 具体的な支援内容

- 相談 特別支援に関する教員へのアドバイス
保護者対応に関する教員へのアドバイス
生徒への就業アドバイス
- 支援 履歴書の書き方指導
人間関係の悩みについて生徒へのカウンセリング

授業・実習について生徒からの悩み相談

- 授業 1年次の授業観察（数学I, 科学と人間生活）
2年次のホームルーム活動（自己理解について等）
- 会議 ケース会議, 学年会

4 これまでの効果

昨年度からの継続のため、生徒との信頼関係が構築されている。教師とは違った目線で、生徒からの悩み相談を継続的に受けていただいております、生徒の状態も良好である。

生徒にとって身近な関心事であるアルバイトで提出する履歴書の作成指導を通して、就業に対する意識向上や意欲増進に繋げることができた。

ホームルーム活動では、エンカウンターや自己理解を深めるワークシートを作成・使用し、人間関係構築のスキルアップを図った。今まで話したことのない人に声をかけたり、共同で作業したりした結果、クラス内の人間関係づくりに役立った。

また、担任との情報交換により、より深い生徒理解につながり、生徒の言動に敏感に反応して対処することができている。生徒が抱える問題に関して、気軽に相談できることから、担任の心理的負担の軽減にも、つながっていると思われる。

5 今後の方向性について

生徒や保護者対象の教育相談だけでなく、3年次生及び4年次生のキャリア教育を中心に、卒業後の進路に向けた継続的な指導に重点を置く予定である。教職員との各種会議において、特別支援を要する生徒への適切な指導方法の助言を依頼し、生徒支援の充実を図りたい。また、教職員の特別支援教育への意識向上を目指して、教職員対象の勉強会等の開催について、外部機関との連携や講師紹介等の助言を求める予定である。

③ 名西高等学校定時制課程（協力校）

1 支援相談員の勤務時間 月曜日 18:10～21:10（3時間）

2 支援活動実績

相談回数	支援回数	授業参加	会議出席
12回	12回	21回	0回

3 具体的な支援内容

- 相談 生徒の就業及び進路相談
教員の生徒に対する就業及び進路指導の相談
- 支援 履歴書の書き方指導

- | | |
|-----|-------------------|
| | 面接指導（就職） |
| ●授業 | 理解の遅い生徒の指導（社会と情報） |
| ●会議 | なし |

4 これまでの効果

5月当初に4年生全員と個別面談を実施し、特に就職希望の生徒を中心に担任と連携して指導・助言を行ってきた。当初は就職に前向きであった生徒も、途中で自信を失ったり、あきらめかけたりしたが、粘り強く指導や激励を続け、現在3名が就職の方向性が定まり活動中である。授業については、わからないところを個別に指導するため、理解の遅い生徒にとって心強い存在である。

5 今後の方向性について

今後も、4年生の進路決定がスムーズに行われるよう、担任と連携をとりながら個別指導を続けていく予定である。4年生の進路決定後は、3年生に対しても同様の取組を行う。授業については、今後も生徒の能力差が大きい科目「社会と情報」で活用する予定である。

2) 特別な支援を必要とする生徒への支援

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○巡回相談員を活用したケース会議の実施

1 目的・ねらい

中学校からの引継で自閉傾向があるとされる生徒について、様々な相談支援を活用しながら、支援のあり方を考えた。

2 生徒の現状

生徒は、年度当初より授業に参加できない状態が続いていた。出席していても教科書やファイルを開かない、プリントやノートを書かない、写さない等、授業に取り組む姿勢が見られず、「めんどくさい」という口癖を繰り返していた。

3 取組と経過

6月	<ul style="list-style-type: none">・担任は保護者に、生徒の傾向やこれまでに受けた支援について話を聞いた。・単位修得が危ぶまれるため、学年会や関係する教員で話し合い、単位をとるための3箇条を示してはどうか等の手立てを考えた。・担任がスクールカウンセラーに相談し、生徒の特性や家庭環境、支援のあり方について話し合った。・みなと高等学園に巡回相談を依頼し、授業観察と相談を行う中で、具体的なアドバイスを受けることができた。しなければならないことを明示し、できたことは即時に評価し、卒業や進路などの目標を持たせることの大切さについて助言を受けた。
7月	<ul style="list-style-type: none">・教科担当や管理職、スクールカウンセラーを交えたケース会議を開き、各授業での様子を確認するとともに、今後の支援について話し合い、共通理解を図った。
9月	<ul style="list-style-type: none">・担任と教頭と生徒・保護者による面談で、学校生活の現状について話し合った。・生徒がスクールカウンセラーによるカウンセリングを受けた。
10月	<ul style="list-style-type: none">・生徒がスクールカウンセラーによるカウンセリングを受けた。

4 成果

カウンセリングや巡回相談を重ねることで支援のあり方に気付きが得られ、ケース会議の開催につながり、教員間で現状の把握や支援について共通理解を図ることができたことは成果である。2学期以降、指示を具体的に行い、よくできたところをその都度認めて評価するという共通の手立てに取り組むとともに、それぞれの授業における工夫や配慮により、効果的な支援を行うことができた。教員間では、担任を中心に生徒の状況や支援について頻繁に情報交換ができるようになった。また、生徒も、担任をはじめ多くの教員から配慮や支援を受けて、登校や授業参加への意欲を持ち続けることができた。

5 今後の課題

生徒自身が、将来や卒業後を見据えた長期的な目標を持つに至っていないところが課題であるが、今後も教員間で共通理解を図りながら、生徒への支援を継続したい。

② 池田高等学校定時制課程

○校内教職員研修の実施

1 目的・ねらい

教職員の教育的スキルや資質の向上を図り、生徒一人一人の心と身体を理解を深めるとともに、特別支援や教育相談についての基本的な知識・技能を身に付け、学習上・生活上の困難さの改善や克服等、生徒の特性に応じたきめ細かな支援の充実に繋げる。

2 内容

A D H D（注意欠如・多動症）の基礎知識、授業のユニバーサルデザイン化、現代の生徒の精神的傾向、授業での集中・注目のさせ方や指示の出し方、教育相談に必要なカウンセリングマインドなど、発達障がいある生徒への理解や対応について学ぶ。

3 取組

- ◇特別な支援を必要とする生徒に対する支援に関する教職員研修会
- ◇カウンセリングに関する教育相談職員研修会
- ◇授業に集中しやすい教室環境づくり

4 成果

日常的に生徒観察を実施し、生徒の変容などについて、教職員間で情報共有を図るとともに、教室や廊下の掲示物全てにイラストや写真を活用するなど、授業に集中しやすい教室環境づくりや、特別な支援を必要とする生徒に対する支援・指導の標準化へとつなげることができた。また、教育相談週間を学期に1回設定し、年3回実施するとともに、時宜を捉えて生徒の生活や学習状況に関する三者面談を実施できた。

生徒・保護者アンケートにおいて、「先生はよく相談にのってくれる」と94%の生徒が回答し、三者面談や教育相談に対する保護者の肯定的評価は100%と高かった。

5 今後の課題

今後も生徒の実態把握に努め、学習面・行動面・対人関係などに悩みを持つ生徒に対し、きめ細やかな指導・支援を行うことが重要である。そのためにも、生徒の実態に応じた校内教職員研修を定期的実施する中で、教職員が生徒や保護者のニーズに気づき、見極め、指導・支援を行う力をさらに身に付ける必要がある。また、生徒指導や教育相談においては、生徒に対して愛情を持ち、親身になって心に寄り添うことが重要であるとともに、保護者への連絡・相談を日常的に行い、保護者との信頼関係を構築し、より一層、家庭との連携を密に図る中で課題解決に臨む必要がある。

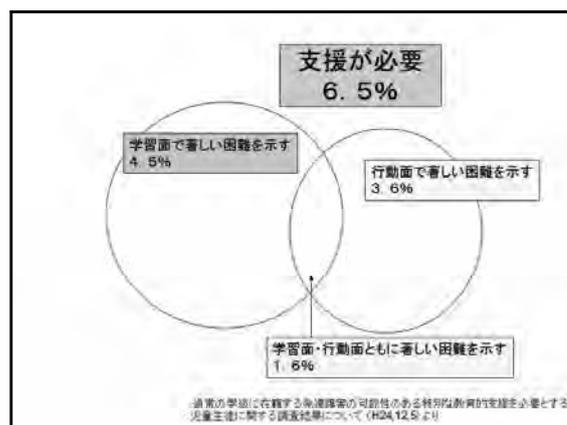
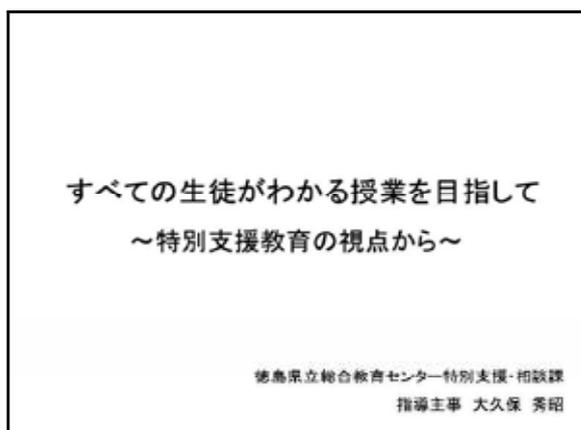
③ 合同研修会の実施

○ 「わかる授業」を行うための研修会

- 1 期 日：平成28年10月17日（月）
- 2 会 場：徳島中央高等学校
- 3 テーマ：「全ての生徒がわかる授業を目指して～特別支援教育の視点から～」
- 4 講 師：徳島県立総合教育センター特別支援・相談課 指導主事 大久保 秀昭
- 5 内 容：

私たち教員は、ややもすると生徒の学習成果が上がらないことや、学習にちゃんと取り組めないことを、生徒だけのせいにしてしまい、自分の責任を棚上げがちである。教員が、「わかる授業」を意識することは非常に大切なことである。そこで、本校にある程度の比率で在籍している、発達障がいのある生徒の理解と、全ての生徒が「わかる」授業に向けた授業のユニバーサルデザイン化について学ぶことを目的として、研修会を行った。

講演では、特別な支援を必要とする児童生徒が、全ての校種において平均で6.5%存在しており、全ての生徒に対応する授業のユニバーサルデザイン化が必要であることから、発達障がいのある生徒の理解と指導のヒント、全ての生徒に有効な指導方法を、具体的な事例やワークショップを交えてお話しいただいた。講演の中で、「魔法の言葉や方法はありません。けれども、魔法の言葉とか方法を創り出すことはできます。」といった話が特に印象に残った。信頼関係をしっかりと築き、どういう言葉にのってくるのか、どういうことが好きなのかがわかれば、その生徒に対して魔法がかけられるといった内容であった。以下に講演でのスライドを掲載する。



徳島県においても

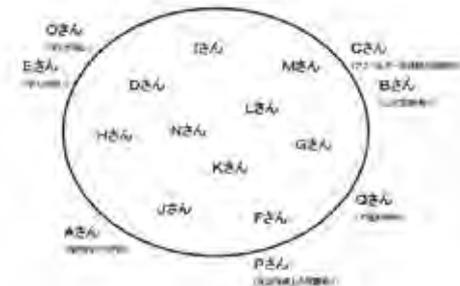
気になる子ども

- 3歳児段階では8.1%
- 5歳児段階では6.8%
- 小学校低学年段階では6.4%
- 小学校高学年段階では5.8%
- 中学校段階では4.6%
- 高等学校段階では2.6%

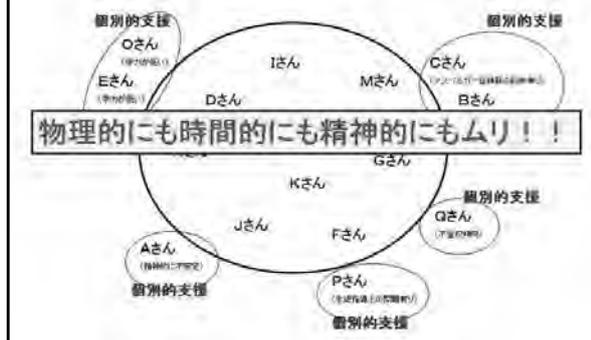
全ての校種において支援の必要な児童生徒が存在する。

特別支援教育を必要とする児童生徒の調査結果(平成20年)より

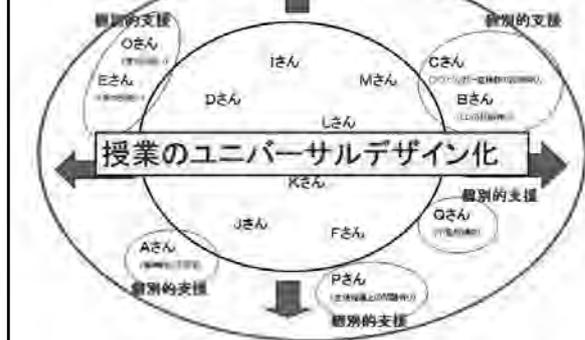
多くのHRの現状



支援をしようとする



みんなで活用できる支援へ



こんな気になる行動はないですか？

- 指示と違う行動をする。
- 指示をするとすぐに聞き返す。
- 指示をしてもすぐに動けない。
- 今まで何度もしてきたことができない。
- ルールに従えない。
- 何度も同じ事を聞いてくる。
- 何度も同じ失敗を繰り返す。
- 周りから見ると「えっ？」と思う行動をする。

では、なぜこのようなことが起こるのでしょうか？

気になる行動のなぜ？

指示と違う行動をする。
周りから見ると「えっ？」と思う行動をする。

- 字義通りに理解する。
- 言葉の裏の意味や暗黙の了解がわかりにくい。

何度も同じ事を聞いてくる

- 不安を抱えている生徒は、確認のため何度も聞き返すことがあります。特に、いつもと違う行事や予定が変更になったときなど

気になる行動のなぜ？

指示を聞いてもすぐに動けない。
周りから見ると「えっ？」と思う行動をする。

- 注目しているところが違う。
- 状況を理解することに時間がかかる。
- 関係のある状況と関係のない状況を分離することが難しい。

周りが何をしているのか今ひとつわからない。

気になる行動のなぜ？

周りから見ると「えっ？」と思う行動をする。
ルールに従えない。
何度も同じ失敗を繰り返す。

- 意外と勘違いして覚えていることも多い。
- 否定するよりも、共感することが大切。

まずは、本人がどのように感じ、思っているのか話を聞いてみましょう。それから、正しいルールや意味を伝えましょう。

ポジティブ指導のヒント

- こんなときはこうすればいいよ。
- こうした方がいいんじゃない。
- こういう方法があるよ。
- こうした方が整理できるよ。
- こういう意味だよ。



とにかく教えてあげること
成功体験を積み重ねること

授業のユニバーサルデザイン化

- 全ての生徒にわかりやすく、参加しやすいHR経営や授業作り。
- 苦手さや困難性をもつ生徒たちのためにする手だてを全員に行えば、クラスの生徒全員が分かりやすくなるということです。
- 苦手さや困難性を持つ生徒には「ないと困る」支援であり、全ての生徒にも「あると便利な」支援である。

全てのHRで共通した取り組みができるよう
学校全体として取り組むことが大切！

ルールの明確化

支援の必要な生徒にとって

- 何をして良いかわからない環境 **不安**
- 注意される時と注意されない時がある **不安**
混乱

- 「何を」「どこまで」「どのように」などより具体的に方法を決めることが大切
- 何のためにするのか目的や意義を説明することが大切。

ルールの視覚化

- 言葉だけのルール提示
→聞き取りの弱い生徒、記憶力の弱い生徒
理解力の低い生徒 etc...



ルールを守ることが困難になりがち

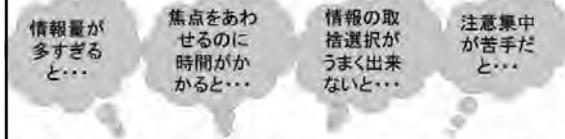


視覚的に示す！！

「生徒の視点で」「わかりやすく」「簡潔に」

環境設定の工夫

- 教室内の整理整頓を心がけよう
(持ち物の片付け方や授業の準備等も含む)
- 生徒にわかりやすい環境設定をしよう
(どのくらいの視覚的情報を生徒たちは処理できるのでしょうか?)



見えていない状況, 分からない状況に陥りやすい。

不安感が高まる。 自信がなくなる。
疲れる。
意欲が低下してしまうことも...

一度に提示する情報量への配慮, 「どこを見ればいいのか?」「何が見えるのか?」等を説明することで, 見つけやすく, 見やすく, 分かりやすくなる。

- 周囲の刺激に振られやすい生徒たち
- 衝動性の高い生徒たち
- 集中できる時間の短い生徒たち

間違いが多くなる。
活動が進んでいかない。
疲れやすい。

妨害刺激を抑えた集中しやすい環境作りが有効。
集中できる時間を配慮した活動量の設定や
授業展開の工夫も有効。

望ましい環境の中で活動することで, 活動本来の
楽しみや関心を高めていくことが大切!

具体的な言葉

抽象的な言葉



絵に描きやすい言葉

絵に描きにくい言葉

あいまいな言葉

しっかり

ゆっくり

ちょっと

だいぶ

けっこう

だいたい

ほどほど

まあまあ

気になる行動のなぜ?

質問に対しての回答がとんちんかん
指示をしてもすぐに動けない。
今まで何度もしてきたことができない。
何度も同じ事を聞いてくる。
何度も同じ失敗を繰り返す。

- 言葉の意味がわかっていない。
- 質問の中に比喩表現があるために意味がわからない。
- あいまいな表現がわかりにくい。
- 生徒と先生の間で基準が違っている。

具体的な言葉を使おう

- 大人が指示する言葉、生徒たちはわかっていますか？
「部屋の端っこ(隅っこ)を掃いて」
「えっとぶりやなあ。ようせつきよんでえ〜。
いけるで〜。今渡したやつつまえといてよ。」
- 絵にかける言葉を使おう。

生徒がわかる言葉で指示を出すことが大切。もう一度確認してみませんか？

困っているのは誰？

- 皆さんが困っているように、生徒たちも困っていることが多いです。



問題行動の原因をもう一度考えてみましょう。
指示がわかっていない。することがわからない。
なにもすることがない。どうすればいいのかわからない。

「わかる」「できる」の積み重ねが大切

気づきから始まる特別支援教育

- 「なんでだろう？」「おや？」「不思議やなあ〜？」「なんでわからんの？」と感じたら、もう一度生徒の日常を見つめてみましょう。
- 生徒指導的視点からのアプローチで上手くいくようであれば、継続指導していきましょう。
- 繰り返し指導しても上手くいかなかった場合は、特別支援教育的視点からのアプローチが必要かもしれません。

発達障がいへの支援で感じること

- 効果的な支援のためには、本人が納得できるように話し、説得することが一番大切だと考えています。じっくり話を聞き、誤解を解き、正しい行動や正しい思考を教える。
- また、いけないことをした時には叱りますが、どこがいけなかったのか、どうすればいいのか説明もします。このひと手間がとても大切であると感じています。
- 魔法の言葉や方法はありません。障がい特性を理解したうえで、じっくりと向き合うことが大切だと感じています。

○生徒との人間関係形成、見取りに関する研修会

- 1 期 日：平成28年12月12日（月）
- 2 会 場：徳島中央高等学校
- 3 テーマ：「今どきの子どもにどう関わるか」～「まなざしの教育実践」～
- 4 講 師：徳島文理大学大学院教授 三橋謙一郎 先生
- 5 内 容：（講演レジュメより、抜粋）
 - 一. 共感の「まなざし」で向かい合う
4つのポイント

- ①共感のまなざしでむかえよう。
- ②子どもの身に（心に）語りかける。
- ③肯定部分を発見して
- ④子どもの怒りや悲しみを共有して しかり方の問題

1. 共感とは何か… (相手の立場に寄り添う)
 - (1) 「荒れる」子どもの「荒れない」部分を観ていく《ある中学生の詩を紹介》
 - (2) 「もう一人の自分」への愛と要求
 - (3) レッテル貼りの克服 (徹してやるという思いが強くなる) →クリアする方法

2. 「まなざし」とは何か
 - (1) 「眼」と「まなざし」の違い (身体の一部←→表情=精神の現れ)
 - ①身体=年齢と共に衰える
 - ②精神=年齢と共に豊かになる
 - ③目は一定、まなざしは刻々と変化する
 - (2) コミュニケーションの原点としての「まなざし」

二. 子どもの身(心)に語りかける

1. 「話」(一方通行的)と「語りかけ」(思い=大切な内容)の違い
2. 「語りかけ」の実践
 - (1) 積極的に関わる
 - (2) 相手の立場や目線で寄り添う
 - (3) 周りの状況を知る《背景》
 - (4) 活動をしくむ

三. 肯定部分を発見して、ねうちづける

1. 過程としての評価活動 (褒める→その場で褒める)
2. 肯定としての評価活動
(良さを発見し、褒めることを主にしてしかることを福次的に捉えてみる)
3. 発見としての評価活動 (以下、「四.」の内容:良さを発見する能力)
4. 願い=要求としての評価活動 (ある校長先生の朝礼の話)
5. レトリックとしての評価活動 (パトス:強く褒める→相手の心を揺り動かす)

四. 子どもの「痛み」や「悲しみ」を共有して、しかり、要求する

1. 行為の事実をしかること
2. 本気でしかること (子どもは動物的本能で見抜く)
3. 画一的なしかり方をしないこと (自殺の事例)
4. 他と比較してしからないこと (我慢する力が無い→キレル, 兄弟との比較×)

6 教職員の感想 (抜粋)

- 先生のお話を伺って印象に残った言葉がいくつかあった。一つは「レッテルを貼られる部分はその子の一部分でしかない」だ。わかっているつもりだったが、なるべくその子の荒れない面を見つけて共感すべきということを確認した。もう一つは「まなざしは、本人が努力すれば年とともに益々若く美しく豊かになっていく」だ。まなざしは表情であり、精神の表れなので、意識して微笑をつくることも大切だと思った。自分の意識が

- 子どもたちを変えらるということ肝に銘じて日々精進したいと思った。
- ・資料7を読んでいて、自殺してしまった生徒の担任に対する「(教員は) 宿命的につきまとう思い上がり捨て、子どもを軸に現場から学ぶという姿勢を保ち続けてほしい」といったコメントに共感した。教員としての価値観が固定化し、弾力に欠ける教員にならぬよう、生徒から目を背けずやっていきたい。
 - ・資料1の詩の生徒など、HRの生徒と重なる部分が多く、大変勉強になった。挨拶をしても、話をしても、なかなか目を合わせようとしない生徒もいるが、粘り強く温かなまなざしを向け、生徒と語り合っていきたい。
 - ・「まなざし」の教育実践には、テクニックの側面と、教員の人間性が問われる側面がある。表情・態度・声等に気をつけつつ、生徒の内面に共感するような教育実践を心がけていきたい。
 - ・どの生徒にもある「良いところ」「褒められるところ」をしっかりと見つけるためにも、生徒と関わる時間をできるだけとりたいと思った。生徒の良さを引き出すためにも表面で向き合い、温かい「まなざし」を持って接することが大事だと感じた。
 - ・三橋先生のおっしゃる「まなざし」のアプローチは、本校のように多様な生徒を抱える現場ではとても有益だと感じた。

3) 就労支援

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○「総合的な学習の時間」における「キャリアワークコース」の実施

1 目的・ねらい

本校昼間部には、これまでアルバイトで働いた経験が少ないなど、卒業年次になり就職応募の時期が来ても、自分が働くイメージを具体的に描くことが難しい生徒が少なくない。また、抱えている事情も異なる生徒に対して、履歴書の作成や面接練習には、一斉指導ではなく個別の支援が欠かせない現状がある。そこで、2・3年次の早い段階から就職に向けて意識を高め、具体的な準備を進めることができるように、このコースを設定した。

2 内容

講 師 「キャリアとくしま」の齋藤雅博先生(第11回のみ工藤美幸先生)
実施時間 総合的な学習の時間(金)午前部 第3時限 午後部 第3時限
受講生徒 午前部：2年生2名，3年生8名，午後部：2年生2名，3年生2名
(「キャリアコンサルタントの講師先生と一緒に、就職活動についてのスキルを学び、早い段階から準備しよう」という案内に関心を持つ生徒が希望して受講している。)

3 取組

1	5月6日(金)	就職活動に当たって 1年間の講座の流れを説明し、高校新卒者の就職状況を概観した。また職業人からのメッセージとして、時間を守ることや挨拶の大切さ、体力や健康管理などの基本について話を聞いた。
2	5月20日(金)	自己理解 自己PRに活用するため、エゴグラムを始め、いくつかのワークシートを用いて自己分析に取り組んだ。自分の性格や長所・強みについて考え、自己紹介文を作成した。
3	6月3日(金)	自己紹介のシナリオ作り 高校生活を振りかえって印象に残っていることを書き出すとともに、前回の自己理解を踏まえて自分の性格(長所)から話のシナリオを作成した。
4	6月10日(金)	社会と仕事、職業理解 産業分類や職業分類について、また高卒求人と一般求人の違いを学んだ。働くことの意義や自分に合う仕事とは何かについて、意見を交換し、考えた。
5	9月16日(金)	就職活動の流れを知る

		高卒求人応募への一般的なスケジュールについて説明を聞き、早めからの準備が大切であることを学ぶとともに、実際の求人票をいくつか見比べながら、見るべきポイントを押さえた。
6	9月30日(金)	面接対策 面接試験に臨む前に気を付けることとして、挨拶やお辞儀などのマナーを確認し、実際に練習した。また、自己紹介や長所、高校生活の思い出や特技・資格について、自分の考えをまとめた。
7	10月7日(金)	模擬面接(1) 入室から退室まで、お辞儀の方法や立ち位置等、所作に注意しながら、3人程度のグループに分かれて模擬面接を行った。評価シートを用いて、教員からの評価と生徒相互の評価を行い、フィードバックを行った。
8	10月21日(金)	模擬面接(2) 模擬面接に繰り返し取り組み、互いを参考にしながら練習を積み重ねた。
9	11月11日(金)	マッチングフェアに向けた面接練習 実際の就職面接が迫っている時期のため、マッチングフェアの求人をもとに、個々に応じた実践的な面接練習を行った。
10	11月25日(金)	社会人としてのマナー(名刺交換や電話応対等) マナーはなぜ大切なのか、またマナーの基本について学んだ。また自分の名刺を作成し、ビジネスマナーに基づいて交換した。実際の電話機を用いて電話応対の練習にも取り組んだ。
11	12月2日(金)	ビジネスマナー(発声練習) コミュニケーションの大切さについて考え、相手の立場に立って考えることを学んだ。コミュニケーションに欠かせない表情や声の出し方について考え、実際に全員で発声練習を行った。
12	1月13日(金)	就職活動準備 労働法や雇用形態 アルバイトの事例等も踏まえながら、労働者の権利を守る様々な労働法について具体的に学んだ。また、時間を守るなど就労の際に注意するポイントも確認した。

1学期は自己理解をテーマとして実施した。就職試験の面接で自分をアピールできるように自分の長所や短所、これまでがんばってきたことなどを文章にまとめる練習を行った。語彙が少なく、自分に自信を持ちにくい生徒が多かったが、ワークシートに取り組み、性格や長所を表す語句を学びながら、自分についてじっくりと考え、整理することができていた。

2学期前半は模擬面接を行った。1学期にまとめた自分の長所や自己アピールをもとに、入室・退室やお辞儀の練習等を行い、集団面接形式で実践的に練習した。他の生徒の様子から学んだり、グループごとに面接と観察を交代することで評価する立場にまわったり、多面的に取り組むことができた。講師の方からはもとより、先に内定をもらっ

た生徒からのアドバイスには説得力があり、真剣に練習に取り組むとともに、実際の就職面接に生かすことができた。また、アドバイスをを行った生徒にとって、意見を表明することへの不安を払拭し、自信につなげることができた。

2学期の後半はビジネスマナーについて学んだ。作成した自分の名刺を用いて名刺交換をしたり、2台の電話機を活用して定型文例での電話応対の練習をしたりするなど、活動を取り入れた学習では、積極的に声を出しながら熱心に取り組むことができた。

3学期は就職活動準備として、労働関係諸法や雇用形態について学んだ。生徒はアルバイトでの気になる点を質問しながら、労働者の立場に立って考えようとする姿勢が見られた。

4 成果

雇用をとりまく社会情勢や求人票の見方、アルバイトに関する事など、生徒は疑問に思うことを適宜質問しながら学習し、模擬面接では緊張感を持って取り組むなど体験的に学ぶことができた。早い時期から系統的に就職準備を進め、教員のほかにキャリアコンサルタントの先生から実践的な指導を受けることができ、生徒たちが前向きに学び、就職への準備に取り組むことができた。

5 今後の課題

課題としては、月2回1時間ずつの講座のため、体験的内容も十分に深めることができない場合があり、連続しているテーマであっても次時まで学習内容への関心を保持しておくことが難しい点があげられる。また、卒業年次の生徒に比べると、関心や意欲が弱い2年次生に対してどのようなアプローチが有効か、検討する必要がある。

② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○学校設定科目「職業基礎」オリジナル教材の作成

1 目的・ねらい

働きながら学ぶ本校の生徒に、就業を通して、社会人として必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、将来、企業での業務を主体的・合理的に遂行していく態度と能力、及び職場等での円滑な人間関係の形成に努める態度を育てること目的とし、学校設定科目「職業基礎」を開設した。この授業を通して、社会に出た時に必要な職業観や就業体験に向けた心構えを養う。

2 内容

オリジナル教材を使って、教科の枠を越えて、社会に出てから役に立つ能力を育成する。離職する若者の原因となる、「会社と自分の適性ととのミスマッチ」「職場の人間関係」などの障壁をできるだけ取り除き、意欲とやる気を持って働き続けることができる資質を養う。教室での学習では、「生活スキル」や「ビジネスマナー」を中心に上げる。

これらは学校生活や日常生活，アルバイトでも役に立つ内容であり，さらに詳しく勉強して「秘書検定」「ビジネス文書実務検定」などの検定受験等，資格取得に向けた意欲の醸成へとつなげる。

3 取組

年1単位で開講し，スライドや実物教材等を用いて授業を行う。授業内容は次のとおりである。

- ①はじめに（授業の目的）
- ②自分の生活を見直す
- ③将来設計
- ④徳島を知る・徳島中央高校を知る
- ⑤列車・バスに乗る
- ⑥挨拶・人と話をする
- ⑦手紙を出す
- ⑧私の家計簿
- ⑨フリーター・ニート・正社員
- ⑩しごとの力100
- ⑪職業適性検査
- ⑫身だしなみ
- ⑬ビジネス文書作成
- ⑭冠婚葬祭のマナー
- ⑮ビジネス計算の基礎
- ⑯電話の応対・接客
- ⑰求人票の見方

このほか，学校行事において，外部講師を招いたビジネスマナー講座「電話応対の基礎」「就職面接でのマナー」を実施し，「職業基礎」の授業と関連付けた指導を行った。

4 成果

それぞれの教科で学習した内容を，総合的に組み合わせた授業内容になっており，生徒の現状やニーズに応じて授業内容を工夫し，学習した内容を即実践できるよう指導した。まずは，自分の生活を見直し，自分の適性を的確に把握すること，自分の将来設計を行い，見通しを持って計画的に学習することを意識させた。

その結果，生徒は，今自分がどういう状況で何を必要としているか，何のために学習しているのかをよく理解し，目的意識を持って学習することができた。挨拶，服装，応対の仕方など職場で必要となる基本的なマナーは，学校生活やアルバイト先で役に立っており，円滑な人間関係を築く一助となっている。また，求人票の見方や一人暮らしにかかるお金，年金や保険等について学習することで，アルバイトで得たお金を大切に使うようになり，将来のために節約するようになってきた。ビジネス文書作成においては，文書作成ソフトの操作技術だけでなく，時候の挨拶や敬語などの知識，文章の組み立て方などを習得し，ほぼ全員がビジネス文書を自分で作れるようになった。生徒の中には，

ビジネス文書検定3級を受験し合格した者、今後、検定に挑戦したいと考えている者がおり、就労に向けた意欲醸成につながっている。

5 今後の課題

学習した知識や技術を、今後、社会で実践し定着させていく必要がある。会社訪問や就業体験の機会を与え、さらに求められている知識や技術が何であるかを確認し、一層学習意欲を高めていかなければならない。そのためにも、受け入れ先の企業開拓や企業研究を教員一丸となって行っていくことが求められる。また、就職試験に有利に進めるため、秘書検定、ビジネス文書実務検定、珠算・電卓実務検定等、多くの資格取得に向けた意欲をより高めたい。

一方で、勤労意欲を高め、社会的自立を促し、社会に貢献する意欲を高めるための指導も必要である。アルバイトではなく、正社員として雇用されることの意義や大切さをしっかりと認識させ、意欲的に就職活動に臨ませたい。

さらに、就職後の離職率を下げるための指導も重要となる。社会性が十分身に付いていない本校の生徒にとって、一般常識や基礎学力が社会人に必要とされるレベルまでに達していない現状があり、コミュニケーション能力が乏しく、些細なことでつまづいてしまうことも多く、離職の要因ともなっている。各教科と連携し、総合的に生徒の学力を上げるとともに、学校行事やホームルーム活動等を活用して仲間作りを行い、集団行動を身に付けさせ、人間関係形成能力を高めていきたい。

○学校設定科目「職業基礎A」における，外部講師による電話応対教育，面接練習講座などの生活スキル及びビジネスマナー講座の実施

1 目的・ねらい

外部講師を招聘し，電話応対や面接練習の学習をする。外部講師活用により基本から応用までを学び，通常の授業とは異なる雰囲気の中で，全体の前で実践できるようになることを目標とする。

2 内容

1. 日時：平成28年11月25日（金）
2. 日程：第1時限（電話応対）
第2時限（面接指導）
第3時限（事後指導）
3. 講師：浪越あゆみ（(株)さんぼう専任講師）
4. 概要

電話応対についての講義

- 第1章 電話応対が苦手な理由
- 第2章 メラビアンの法則から分かる，電話応対のキーポイント
- 第3章 はじめの第一声で決まります
- 第4章 見られていないように見られている電話姿

3 取組

講師の先生から

- ①電話応対はなぜ難しい・苦手という方が多いのか？
- ②好感をもたれる言葉遣いを意識する
- ③お願いや断りの場合・・・クッション言葉が有効
- ④聞き間違いには細心の注意

などの説明があり，最後に基本電話応対のロールプレイングを行った。

電話応対で練習した発声法を用いて，大きく聞き取りやすい声を出し，面接練習を実施した。



4 成果

電話応対も面接も「はじめの第一声で決まります。」がキーワードとなり，声を出すこと（発声練習）から練習した。ドレミファソのソの音で会話をすることができるようになり，型を示すことで，明るく聞き取りやすい対話が生まれ，コミュニケーションがうまくとれるようになった。



5 今後の課題

人間関係を築き，良好な社会生活を営むために，機会を数多く設定し，今後も自信を持って答えたり，自分の意見を人前で言える生徒を育てることが重要である。

④ 徳島科学技術高等学校定時制課程

○資格取得対策のための参考図書の活用

1 目的・ねらい

定時制課程唯一の工業科である本校ではあるが，学習への目的意識が希薄である生徒が少なくない。そこで，各種資格・検定試験の参考図書を購入し，これを用いて指導することで学習意欲を喚起させる。

2 内容・取組

次の資格・検定に関する12冊の図書を購入し，活用した。

乙種危険物取扱者（2種類），情報技術検定（2種類），日本語ワープロ検定3・4級，情報処理技能試験表計算3・4級，第2種電気工事士（3種類），2級建築施工管理技士，3・4級計算技術検定，基礎製図検定

3 成果

基礎製図検定6名，計算技術検定12名，危険物取扱者3名が，合格することができた。

4 今後の課題

受験者数がさらに増加するよう，生徒への補習出席の呼びかけを積極的に展開する。

○職場見学会等の実施

1 目的・ねらい

卒業年次の就職希望者に対して，面談等を通して職業の適性を考慮した上で，企業に対して求人開拓を行う。その後，求人可能となった企業に生徒対象の職場見学会開催を依頼する。生徒が会社の雰囲気や仕事内容を十分理解できた上で，受験意思を固めることで，就労に向けた意欲向上と，離職率の低下を図る。

2 内容・取組

(1) 建築コース4年次生の3名が，A建工（株）（従業員数737名）への就職を希望した。

平成28年11月28日に職場見学会を実施してもらい，総務部長から業務内容の説明を受けた。2名の生徒が受験を希望し，平成29年1月10日に受験をした。

(2) 機械コース4年次生の1名が，B食糧工業（株）（従業員数58名）への就職を希望

した。平成28年12月13日に職場見学会を実施してもらい、代表取締役と常務取締役から説明を受けた。その際、雑談形式の面談を受けた。

- (3) 機械コース4年次生の1名が、C鋼管(株)(従業員数109名)への就職を希望した。平成28年12月22日に職場見学会を実施してもらい、社長、工場長、管理部長から説明を受けた。仕事内容を見て働きたいという意欲がさらに向上して、平成29年1月16日に再度見学会を実施し、受験をした。

3 成果

今まで、本校定時制課程の卒業生が就職していないA建工(株)、B食糧工業(株)、C鋼管(株)の3社から、受験した4名すべての内定を得ることができた。

4 今後の課題

今回、生徒が入社する3社について、入社後も引き続いて企業訪問等によって連絡をとり、卒業生の入社後の相談も行っていく。そして、会社と学校でさらなる良い関係を構築し、引き続き求人を獲得できるよう体制を整える必要がある。

⑤ 鳴門高等学校定時制課程

○バイク整備実技講習の実施

1 目的・ねらい

「総合的な学習の時間」の中で「バイク整備実技講習」を実施することを通して、工業製品としてバイクを捉えさせ、その仕組みについて意欲的に追究させるとともに、就労意欲の向上を図る。自動車整備に興味がある者、または、整備士を目指す者の技術向上に寄与する。

2 内容

原動機付き自転車を始め、自動車まで様々な通学手段が認められている本校定時制課程では、教員が通学時におけるマナーを教え、車両点検の際に安全点検を実施し、指導している。しかし、点検後の整備や必要な部品交換などの面で不安が残っていた。

そこで、実際に生徒自ら整備や部品交換、点検する機会を得ることで、安全に乗車するためのノウハウを身に付けると同時に、工業製品に対する関心を喚起し、「技」を身に付けることで、自動車整備業等への就労意欲を向上させることを主要な目的とした。

3 取組

「ものづくり」の基盤技術や携わる際の勤勉性、協調性などを身に付けるために、生徒たちにとって身近な工業製品であるオートバイに触れる機会を設ける。中古の原動機付き自転車と整備に必要な工具や用品を使用し、整備技術を高める。定期的に講師としてバイク店店主を招き、プロの目から指導や助言をしてもらうこと、安全配慮や技術向

上を図る。また、プロの「技」を実際に見て学び、実践させることで、自分たちが成し遂げたことに対して達成感を持たせる。

<バイク整備実技講習の様子>

講師

スポーツショップ戸田
戸田 啓介氏



4 成果

生徒にとって自分が乗っているバイクの構造や、点検や整備の留意点を、プロから直接指導してもらった。

また、エンジン分解を始めとした単独ではなかなか経験できない作業も実施することができた。自分のバイクを自分で点検することでものを大事にする心の醸成につながったともに、職業とするに当たっての厳しさや事を成し得るだけの技術と集中力・精神力、仲間と協働することの価値を見出すことができた。



5 今後の課題

機材や生徒の出席状況等により、手の空いている者が手持ち無沙汰にならないよう、講師と綿密な打合せを図り、担当させる別の箇所を用意するなど指導計画の工夫が必要である。

○危険物取扱者乙種4類資格取得講習の実施

1 目的・ねらい

企業からの評価につながる資格の取得支援のための講習会等を10回開催し、就労意欲の向上とともに、生徒の自己有用感や自信を高める。「危険物取扱者乙種4類資格」は、ガソリンスタンド等でのアルバイトにおける仕事の幅を増やしたり、就職する際に選択の幅を増やすことができる。また、関連科目である理科系科目（化学・物理等）に対する学習意欲の醸成を図ることができる。

2 内容

資格取得を目指す上で必要とされる用語や語句、計算方法などの説明を分かりやすく、ポイントごとにまとめてきていただき、プロジェクターを使用し、要領よく説明していただいた。

3 取組

燃焼や消化、酸化還元反応など、生徒にとって語句としておぼろげに理解しているようなものの真の意味や状態を知る良い機会となった。なぜそうなるのか、どのような条件でそれが起こるのかについての分かりやすい講習や、化学や物理で学習する事項を、実生活上の事物を例にとった講習であった。

徳島工業短期大学においても、同じ教科書を使用し、危険物取扱者（乙種4類）の資格取得のための講義をされている。

<危険物取扱者乙種4類資格取得講習の様子>

講師

徳島工業短期大学
岩瀬 一裕 教授



4 成果

関連する普通教科に関する学習意欲の向上につながった。教員も生徒と一緒に学ぶことで、生徒の受験に対するハードルが下がり、資格取得のための受験を促すことができた。

5 今後の課題

学力的な問題もあり、生徒によっては講義を受講しただけではきちんと理解できていないことが何回かあった。今後は、担当の教員が今回の講習会で学んだことをさらに掘り下げて、分かりやすく説明ができる態勢を整えていく必要がある。自動車やオートバイに興味のある生徒も多く、自動車整備士にとっては必須である、危険物取扱者（乙種4類）資格取得に向けて、生徒の学習意欲向上につなげることが課題である。

⑥ 名西高等学校定時制課程

○進路講演会の実施，支援相談員及び図書を活用

1 目的・ねらい

本校の生徒は，アルバイトなどに従事している生徒が約半数であるが，アルバイト先選択に当たって，どのような人材が企業に求められているのか，どのような能力が必要なのかなど就労についての認識が十分でなく，将来の仕事について明確なビジョンを持っていない生徒も多い。

そのため，進路講演会を実施し，支援相談員も活用して，就労に向けた意識改善を図ることを計画した。また，進路や就労に関する図書も購入し，役立てることとした。

2 内容

就労支援のため，進路講演会を実施した。週1回月曜日に来校する支援相談員を活用して就労支援を行った。また，購入した図書をホームルーム活動で活用した。

3 取組

地元の「A自動車」社長を講師に，定時制課程で学んだ自らの実体験をもとに，在学中に身に付けておくべきことなどについての講演を実施した。

支援相談員の活用としては，年間のキャリア教育指導計画に則り，5月当初に4年生全員と個別に面談を実施した。その後は適宜，生徒の状況により担任も交えつつ面談を重ねた。1学期の終盤からは，具体的な面接練習，履歴書の書き方などについて指導を行った。

関連図書については，指導の中で，適切な時期に個々の生徒に読ませたり，ホームルーム活動で利用した。

4 成果

自分の進路について積極的に考えるようになった生徒が増加した。数名が専門学校や短大等の上級学校に進学を決め，就職希望者も，例年より早い段階でマッチングフェアに参加するなど，就労に対して強い意欲を見せる生徒もいた。

5 今後の課題

現在の自分の置かれた立場に対する認識が甘い生徒や，就職に対して意欲的でない生徒もまだまだ存在している。したがって，早い段階からの意識付けのためにも，進路講演会の実施や支援相談員の指導，図書の活用等を効果的に組み合わせて実施する必要がある。

また，就職の意欲はあるものの，面接が近づくと体調を崩し，結果として試験が受けられなくなった生徒もおり，精神的な強さや社会性を身に付けさせるための指導も必要である。

⑦ 池田高等学校定時制課程

○職業体験やビジネスマナー講座の実施

1 目的・ねらい

世間の動向や社会の経済状況，社会人・職業人として求められる資質や能力などを理解するとともに，実際の仕事に触れることにより，スキルアップや自己実現への意欲を高め，職業観や勤労観などの育成を図り，生徒の社会的・職業的自立につなげる。

2 内容

職場訪問による体験活動やアドバイザーによるマナー指導を実施する中で，社会人・職業人としての心構えや行動などについて学ぶとともに，進路ガイダンスを通して主体的な進路選択や人生の目標設定など，生徒自ら将来を見越した進路決定をする。

3 取組

- ◇実際の仕事現場についての認識や勤労意欲を高めるための企業見学・職業体験
- ◇社会人に必要とされる資質や能力を身に付けるためのビジネスマナー講座
- ◇自己実現に向けた支援のための進路ガイダンス

4 成果

地元の公的機関である三好消防署や普段は訪れることのない徳島市内3社で職業体験や職場見学を実施し，就労への動機付けや仕事に対する価値観の構築，働く意義や働き方についても幅広く考える機会を生徒に提供することができた。また，進路ガイダンスを実施し，ハローワーク三好から外部講師を招聘して，進路実現に向けた取組方などについて学ぶことができた。

生徒・保護者アンケートにおいて，「子どもは家庭で，進路や将来のことについて話すようになった」と41%の保護者が回答し，「キャリア教育を通じて勤労意欲が高まった」と回答した生徒も78%と，昨年比べて高まった。

5 今後の課題

入学当初から，進路ガイダンスや職場体験などを積極的に実施し，早期に進路意識を芽生えさせ，自分自身で進路決定しようとする意欲や態度の育成が必要であり，家庭で進路に関して話し合いの場を持てるように情報提供などの支援が求められる。また，社会人に必要とされる資質や能力を身に付けるため，体験的なキャリア教育が実施できるよう，より一層，大学，企業，地元住民，その他の関係機関との連携を強化するとともに，職業観や勤労観の確立だけではなく，継続して就労できるように忍耐力を身に付け，人としての生き方・在り方についても考える必要がある。

4) ソーシャルスキル向上支援

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○ソーシャルスキルを磨く「とくしま中央一座」の活動

1 目的・ねらい

中学時代、いじめや不登校を経験した生徒たちが、本活動を通してソーシャルスキルを高め、自らの自信を取り戻し、生きる力を蓄え、誇りと貢献心を持って社会に役立ちたいと思える生徒の育成をめざす。

2 内容

平成22年度、有志の生徒による「人形劇隊」と「絵本の読み聞かせ隊」として活動をスタートした。平成23年度より「総合的な学習の時間」コース別で展開させ、平成25年度からは部活動として認定され、毎年10名程度のメンバーが活動を続けている。本年度は生徒が集まらず、人形劇役が4名、小道具作り役が1名、そのメンバーに顧問の教員が3名が加わることで、人形劇団を構成した。

例年、11月に開催される本校文化祭を皮切りに、保育園や障がい者施設等で上演会を実施するとともにクリスマス会等のプログラムに参加し、交流会を行っている。



1/13 (金) 青葉保育園にて



1/17 (火) 障がい者施設れもんにて



1/18 (火) 北島田保育園にて

※ これまでの上演及び交流施設

みどり保育園・青葉保育園・北島田保育園・八万東保育園
障がい者授産施設「れもん」、しらさぎ台街づくり活動センター
えくせれんと鴨島 (デイサービス施設)
まつしげ人形劇フェスティバルに出場 (H22・H23)

3 取組

本年度、7年目となる「とくしま中央一座」の活動は、活動のプログラム化を図るために、鳴門教育大学大学院 小坂浩嗣教授に指導を受け、取組をスタートさせた。

本年度扱う人形劇のシナリオは、4月から座長となった3年次女子生徒が描いた脚本である。作品のタイトルは、「赤ずきんとブレーメンの音楽隊」である。話の内容は、タイトルから容易に想像が付くが、名作グリム童話の「赤ずきん」と「ブレーメンの音楽隊」のストーリーをミックスさせたものである。年度初めの春休みに座長が一人で作

品を描き上げ、それを叩き台として一座の活動時間（総合学習コース別の時間）にメンバー全員で読み合わせを行い、加筆修正をして、5月より舞台稽古へと入っていった。取組において前年度までの活動と違う点は、次の3点である。

- ・毎時、舞台練習の最後には、小坂浩嗣教授作成の「振り返りシート」を活用する
- ・舞台練習開始時期（5月）と最終の外部公演時（1月）に自己肯定感尺度を見るためのアンケートを実施する
- ・小坂浩嗣教授に御指導いただいたシェアリング法により、ソーシャルスキルを磨き、他者を思いやる心を育成する ※1

この小坂教授に提示いただいた体験振り返り型プログラムを学びの軸として、いよいよ9月から人形劇の本格的な舞台練習を始めることとなった。

第1幕から第5幕までの人形役の立ち位置や小道具のセッティングをはじめ、場面の移り変わりで誰が小道具を動かすのか、また、場面場面でレイアウトを変化させるが、同様に人形使いの居場所も幕ごとによって変わっていくので、より合理的かつ効率の良い各々の動きが不可欠となるなど、他者と協調しながら行動を進める場面は多い。無理のない、見る側に違和感を与えることのないスムーズな場面展開ができるよう、練習をこなしていく中で、メンバー一人一人が模索していった。

4 成果

- (1) 毎年、近隣の保育園や障がい者施設、ケアホーム、市民活動センター等で「人形劇」と「絵本の読み聞かせ」の上演会を行い、園児や障がいのある方、高齢者や市民の方々から大変な好評を得ている。平成28年8月には徳島県青少年健全育成善行知事賞を受賞した。
- (2) 中学時代、いじめや不登校を経験した生徒たちが、本活動を通してソーシャルスキルを高め、芸術的表現活動を通して自らの自信を取り戻し、周囲から評価を受け感謝されることで達成感を味わっている。その経験が生きる力となり、誇りと貢献する心を持って社会に役立とうと、ここ数年、福祉や教育の分野で働く卒業生のほか、「ものづくり」の分野で活躍する卒業生が数多く育っている。

5 今後の課題

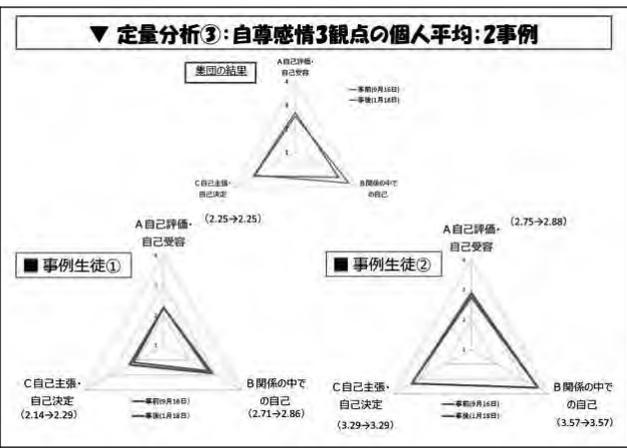
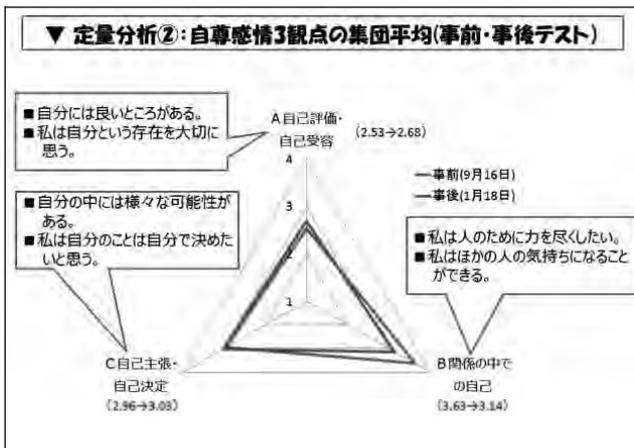
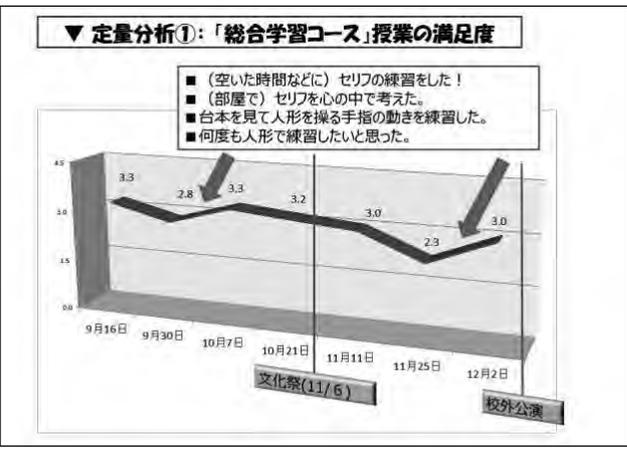
- (1) 毎年、少人数での取組に留まっているので、部員数を増やし、将来的には幾つかの班編成を組めるかたちにして、3～5部立ての人形劇を上演したいと考える。互いに生徒同士で、それぞれの班が他の班の上演を批評しあい、創意工夫・試行錯誤・切磋琢磨しつつ、「やらされた感」のないクリエイティブな芸術性の高い人形劇団をめざす。
- (2) 上演の質を高め、「人形劇フェスティバル」や香川県の人形劇専用施設である「とらまるパペットランド」での公演を目標においた活動を平素から展開する。
- (3) 未上演の保育施設や障がい者施設、公共施設へと活動の場を広げる。

※ 1 鳴門教育大学大学院教授, 小坂浩嗣先生の考察



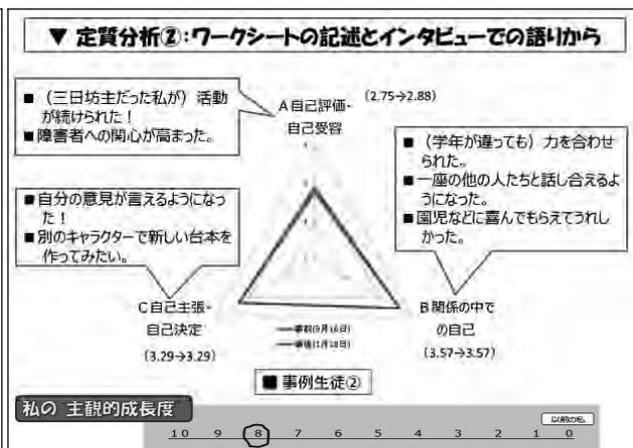
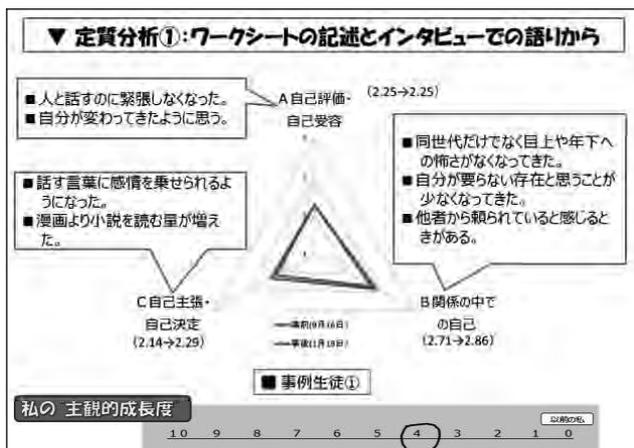
「総合学習コース」授業経過と「とくしま中央一座」の公演経過

授業回	授業日	授業内容	出席者
第1次	9月16日(金)	台本の読み合わせ	
第2次	9月30日(金)	人形操作の練習	
第3次	10月7日(金)	人形劇の練習	
第4次	10月21日(金)	リハーサル	
第5次	11月6日(日)	校内文化祭で公演	
第6次	11月11日(金)	文化祭のふり取り	
第7次	11月25日(金)	人形劇の練習	
第8次	12月2日(金)	人形劇の練習	
第9次	12月18日(日)	徳島市しらさぎ台で公演	
第10次	12月24日(土)	吉野図書館で公演	
第11次	1月13日(金)	青葉保育園で公演	
第12次	1月17日(火)	障がい者授産施設れもんで公演	
第13次	1月18日(水)	北島田保育園で公演	



※全体的に3つの観点のうち, A及びBの数値が伸びている。

※取組に熱心だった事例生徒①及び②の伸び方が顕著である。



ソーシャルスキル向上支援の取組からの示唆

【題材(学習の課題)】

とくしま中央一座

【目的(授業のねらい)】

総合学習コース

【手法・手立て】

シェアリング法

◆体験学習を単に体験だけに止まらず(充実感)、学習にする(気づきの血肉化)

□目的 授業とそのねらいを明確にする。: 生きる力の育成

① 思いやる心を育て

- ✓ 自分を思いやる: 自尊感情
- ✓ 他者を思いやる: 安心・信頼・連帯

② 話し方・聴き方のスキルアップ

□手法 生徒の身の丈に応じて工夫する。: 個人で考えとみんなで考える場の設定

□得たコツ

- ① 考えや思いを言葉にする (自分自身の押し返し)
- ② 繰り返すこと(習慣化 → 気づきが効力感や有用感へと変容していく (血肉化))
- ③ 先生が存在(調整役・サポート役 ← 学習の過程は山あがり谷なり)
- ④ 生徒の身の丈に合った学習の課題を工夫する

○ 「国語総合」における「絵本の読み聞かせ」の実施

1 目的・ねらい

「読み聞かせ」を実施することにより、一人一人の生徒の創造力を育み、言語能力を高め、人間関係を豊かにすることを目的とする。また本校には、本校入学までの過程でいじめや不登校を経験したり、家庭環境に恵まれていない生徒も存在する。そのような生徒に、「癒やし」と「生きる勇気」を与えるために、絵本の力を借りるものである。

2 内容

国語科2年次「国語総合」の授業において、年間24回(各クラス当たり8回)の「絵本の読み聞かせ」授業を実施し、名作童話に触れることで個々の生徒の感性を呼び覚まし、様々なストーリーや主人公の生き方を追体験させることで、社会性や生きる力を養わせる。

3 取組

読み手を、読み聞かせボランティアグループである「阿波市読み聞かせグループたけのこの会」及び「吉野川市読み聞かせグループかぶとむし」の2団体に依頼し、日頃指導や評価を行わない外部講師から、平常の授業と異なる非日常の感覚で読み聞かせを行うことで、豊かな絵本の世界を体験させ、生徒たちの「読む」「書く」能力の育成につなげる。

使用図書の一覧

回	月日/HR	テーマ/朗読者	題 名	作者・訳者
1 2	9月15日 1限目 201HR 2限目 202HR	心のぬくもりを届けた いなあ 渡邊 貞代 氏 河見 貴代美 氏	ぼんぼん山の月 わすれられたぬくもりもの ええところ おかあちゃんがとつたる	(文)あまん きみこ (絵)渡辺 洋二 (作)スーザン・バーレイ (絵)小川 仁央 (作)くすのき しげのり (絵)ふるしよう ようこ (作)長谷川 義史
3	9月15日 8限目 203HR	生きること 先山 明美 氏	つみきのいえ あたたかい木 あまろくの川たいこ	(文)平田 研也 (絵)加藤 久仁生 (文)くすのき しげのり (絵)森谷 明子 (文)木島 始 (絵)佐藤 忠良 (作)絵岸 武雄
4 5	10月13日 1限目 201HR 2限目 202HR	伝えよう「ありがとう」 の気持ち 河見 貴代美 氏 前田 久仁子 氏	ありがとうさん おおきなおおきな木 ちいさなあなたへ くすのきだんちのコンサート くつあらいましょう	(作)こんのひとみ (絵)いもと ようこ (作)よこたきよし (絵)いもと ようこ (文)アリスン・マギー (絵)ピーター・レイノルズ (作)ぶしか えつこ (絵)すえざき しげき (作)くすのき しげのり (絵)さこももみ
6	10月13日 8限目 203HR	友愛 家族愛 そして 孤独 辰巳 直美 氏	ごんぎつね モチモチの木	(文)新美 南吉 (絵)黒井 健 (文)斎藤 隆介 (絵)滝平 次郎
7 8	10月20日 1限目 201HR 2限目 202HR	特別な日 松浦 君江 氏 笠井 由良美 氏	きつねとぶどう おこる パンの柿の木 ぼくがラーメンたべるとき いちがたつむりじゅうがくに おめでどうたいせつなあなたへ	(作)坪田 謙台 (絵)いもと ようこ (作)中川 ひろたか (絵)長谷川 義史 (作)谷口 真知子 (絵)亭島 和洋 (作)絵長谷川 義史 (文)A.P. セイヤー・J.セイヤー (絵)Rセシル (文)いとう えみ (写真)伊藤 泰寛
9	10月20日 8限目 203HR	すます 先山 明美 氏	ききみみずきん きつねこようぼう じぶんの木	(文)広松 由希子 (絵)降矢 なな (作)長谷川 摂子 (絵)片山 健 (作)最上 一平 (絵)松成 真理子
10 11	10月27日 1限目 201HR 2限目 202HR	絵本を楽しもう 板東 和江 氏 前田 久仁子 氏	三枚のおふだ おだんごころころ めぐろのさんま 三びきのコブタのまんどうの話	『まんが日本めいしばなし』No.17 (文)大川 悦生 (絵)伊勢 英子 (文)絵川 端 誠 (文)ジョン・シェスカ (絵)レイン・スミス (訳)いくしま さちこ
12	10月27日 8限目 203HR	あきらめない心 辰巳 直美 氏	じごくのそうへい ぼくのジイちゃん 泥かぶら	(作)田島 征彦 (文)くすのき しげのり (絵)吉田 尚令 (文)くすのき しげのり (絵)伊藤 秀男
13	11月10日 1限目 201HR	実りの秋	干し柿 いのちをいただく	(写真・文)西村 豊か (原案)坂本 義喜 (作)内田 美智子 (絵)魚戸おさむとゆかみよびかまたち

14	2限目 202HR	笠井 由良美 氏 松浦 君江 氏	どんぐりころころおやまへかえ るだいさくせん うめじのたんじょうび やきいもするぞ	(作)谷口 真知子 (絵)亭島 和洋 (作・絵)かがくいひろし (作・絵)おしはら ゆめ
15	11月10日 8限目 203HR	絆 渡邊 貞代 氏	ヤートモタチ ほうすけのひよこ きつねのおきやくさま きたかぜとたいよう	(製作・脚本)ドイツ村BANDO・ロケ村保存会 (絵)近藤 真由 (文)谷川 俊太郎 (絵)梶山 俊夫 (文)あまん きみこ (絵)二俣 英五郎 (再話・絵)バーナデット・ナッツ (訳)もき かずこ
16	12月1日 1限目 201HR	仲間 川端 美紀 氏	であえてほんとうによかった いっかVゴール(視覚障害者と は)	(作)宮西 達也 (脚本)上地 ちづ子 (絵)相沢 るつ子
17	2限目 202HR	堀江 満子 氏	おっぱい	(作・絵)宮西 達也
18	8限目 203HR	藤川 眞弓 氏		
19	1月12日 1限目 201HR	人生 川端 美紀 氏	まっ、いっか! エジソン	(作)サトシ (絵)ドーリー 紙芝居 伝記シリーズ (脚本)はやしたかし (絵)野々 口 重
20	2限目 202HR	堀江 満子 氏	みずいろのマフラー	(作)くすのき しげのり (絵)松成 真理子
21	8限目 203HR	藤川 眞弓 氏		
22	1月19日 1限目 201HR	愛情 川端 美紀 氏	おじいちゃんが お婆いになったおけ	(作)キム・フォップソン (絵)エヴァ・エリクソン
23	2限目 202HR	堀江 満子 氏	ねこのおめさん	(脚本・絵)渡辺 享子
24	8限目 203HR	藤川 眞弓 氏	ごめんなさいおっぱい	(作)くすのき しげのり (絵)鈴木 永子

4 生徒の感想

- この絵本の読み聞かせを聞いて、思ったことは、普段、当たり前のようにいる人がいなくなって、改めて、ありがたさに気付くというのをよく聞くので、当たりのことにでも感謝していけるようになりたいと思いました。 (『ありがとさん』2年・男)
- この作品からは、母親の大きな強い愛情を感じました。自分の子供のために努力している姿には、とても心をうたれました。特に自分自身が背広を着て参観日に来たところは、おもしろかったし母の愛を感じました。(『おかあちゃんがつくったる』2年・男)
- 「ちいさなあなたへ」が一番印象に残りました。人は生まれた頃は本当にすごく小さくて一人じゃなにもできなかつたのに、どんどん大きくなるにつれ、できることも増えていって自立していくんだと思いました。 (『ちいさなあなたへ』2年・女)
- この話を聞いたとき、自分は自分のくつを大切にできているだろうかと、自分の足元

を見ました。自分が意識していなかったことや物を大切にする、感謝するということが再確認できる、とても良い作品だと感じました。(『くつあらいましよう』2年・女)

○まず家が海に沈んでいることに驚きました。おじいさんが工具を落とし取りに行くところで、前の家での思い出を思い出すところが好きです。楽しい思い出だけじゃなくおばあさんが亡くなる場面は悲しかったのですが忘れられません。

(『つみきのいえ』2年・女)

○最初ごんは、ひとりぼっちで淋しくて人間にいたずらばかりしていて、悪いきつねだと思っていました。しかし、自分のせいで人を傷つけてしまったと知ると、おわびを持って行って、本当はいいきつねなんだと思いました。しかし、最終的には人間に殺されてしまって、すごく悲しかったです。なぜなら、人間はごんが死んでから、ごんの気持ちに気付いたからです。

(『ごんぎつね』2年・男)

○おじいさんが思い出を振り返るのが良かった。たとえ住んでた家がなくなっても、いつまでも家族との思い出は心の中にあるものだと気付かされた。これからはもっと思い出を大切に生きていきたいと思いました。

(『つみきのいえ』2年・女)

○ぼくは、「ぼくがラーメンたべてるとき」を選びました。その理由は、ラーメンを食べている時間も、ほかの国ではいろいろなことがおこっているとわかったからです。戦争をしている国もあるので、一分一秒大切なことがわかりました。

(『ぼくがラーメンたべてるとき』2年・男)

○読み聞かせを聞いて本当に素敵な動物だと思いました。自分の子供のために遠くまで食べ物を取りに行くのは本当に自分の子供を愛してるからできることだと思います。私も将来結婚して子供が生まれたら心から愛したいです。(『きつねとぶどう』2年・女)

○ちっちゃい頃にこのシリーズの絵本で泣いたのを思い出しました。最近絵本もデジタル化してきて思うけど、絵本でしか表せないものがあると思います。絵本はなくなってほしくないです。読み手の方の絵本の読み方がとても好きでした。普通に泣きかけた。

(『であえてほんとうによかった』2年・女)

○やっぱり長所よりも短所の方が目についてしまいがちです。だから、主人公の友達みたいに人の長所を一つでも見つけられることはすばらしいと思います。なので、私自身もそういう人間になればいいと思います。

(『ええところ』2年・女)

○ええところを聞いて私も、ともちゃんみたいに他人の良いところを見たい。ともちゃんみたいに優しくなりたいと思いました。今後生きていく中で様々な人と出会いがあ

ります。だから人の良いところをたくさんみつけていきたい。

(『ええところ』2年・女)

○この話を聞いて私は、自分が今こうして当たり前前に勉強をしていることが、どんなに平和なことなのだろうと考えました。自分が日常だと過ごす今が、たくさんの人が望む平和であることを忘れてはいけないと思いました。

(『ぼくがラーメンたべてるとき』2年・女)

○僕の心に残った本は、いのちをいただくです。その中でも心に残った場面は、牛のみいちゃんを殺してお肉にして、飼っていた家族が食べるところです。これを見て食べ物のありがたさがわかりました。

(『いのちをいただく』2年・男)

○目のほとんど見えない少年たちと必死に真剣に試合をする男の子がすごくかっこよかったです。試合をしていく中でどんどん相手のすごいところを見つけあっていて、試合が終わると友達になっているところがすごく良かったです。

(『いつかVゴール』2年・女)

○人は見た目ではなく、中身なのだということに改めて気付かされました。心をきれいにしていれば、自分の顔や、周りの心まできれいにできるのだと思いました。自分でもそうなれるように心がけたいと思いました。

(『泥かぶら』2年・女)

5 成果

生徒は、これまでの経験から、自尊心や自己有用感等が低く、主体的に何かに取り組むという態度が不足している現状にある。生徒の感想文から、下線部のようにそれぞれの生徒に良い「気付き」が生まれていることを読み取ることができる。

「絵本の読み聞かせ」授業がそのような契機となり、傷ついている心を癒やし、将来に向けた希望とつなげることができたと考えられる。この成果は、絵本作家の西本鶏介氏がいう「児童文学（絵本の世界）こそ、この世で生み出された最高のものである。哲学や宗教のさらに上にくるもの、それが児童文学（絵本世界）である。なぜなら、絵本は、子供たちも大人たちも含めて、一瞬で魂を揺さぶることができるからである。絵本は、決して幼稚なものではない。」を体現するものである。

生徒たちも読み聞かせデーは何時もより緊張感を解き、読み手が掲げる一つ一つの作品に視線を向け、朗読に耳を傾けた。かつて誰かに読んでもらったり、自分自身でも読んだりした懐かしい絵本との再会を果たした生徒もいただろう。そして、こんなすばらしい絵本があったのかと、はじめて読み聞かせてもらう新しい絵本との出会いに感動で胸をいっぱいにした生徒も多かったはずである。

「国語総合」で絵本の読み聞かせを実施するに当たり、生徒の中には、やはり「なぜ高校で絵本の読み聞かせをするのか」と疑問を持つ生徒や、「真剣に観たり聴いたりするのが恥ずかしい」と思っている生徒も少なくない。そのような拒絶感や羞恥心を抱く生徒に対して、教師からは、単刀直入に「絵本は心の栄養だ。騙されたと思って聞いて

みなさい。読み聞かせの後、心がスカッとしたり、慰められることがきっとあるから。」と指導して授業に臨ませている。外部講師である読み手の声の力や、作品の力もあり、生徒は一瞬で絵本の世界に引き込まれ、次の読み聞かせ授業を心待ちにするようになっている。

6 今後の課題

授業実施に当たっては、読み手の方々と綿密な事前打ち合わせを実施している。特に使用する作品の選定に当たっては、作品を読むタイミングを考慮し、生徒たちが今の自分を見つめ直せたり、希望を手にとったりすることができる作品に焦点を当て、ホッと一言や元気付けられるフレーズが絵本の中から見出せるように依頼している。

「4 生徒の感想」で示したワークシートの文例からは、「物を大切にする」「当たり前なことにも感謝できる」「いのちをいただくありがたさ」「絵本でしか表せないものがある」「日常だと過ごす今が、たくさんの人が望む平和」「心をきれいに保つことの大切さ」等の、生徒自身の思いや気付きを読み取ることができる。この生徒の気付きを社会への主体的な参画等につなげることができるよう、次年度に取組をつなげ、高めていくことが必要である。

② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○ 「絵本の読み聞かせ」授業の実施

1 目的・ねらい

本校生徒には人間関係をうまく構築することが苦手な生徒が少なからずおり、その背景には自己肯定感が低く、自己を認識することや他者の心情を推測することが適切に行うことができないという特徴がある。読み聞かせの体験をすることは子供の感受性を豊かにしたり、想像力を高めたりといった効果があり、読み手から聞き手に対して好感情を伝達する良い手段であるともされている。

そこで「絵本の読み聞かせ」授業を実施することで、生徒たちの自己肯定感を高め、自分自身を見つめる機会とし、絵本の世界を追体験することによって想像力を向上させ、他者の心情を適切に推測する力を高めることをねらいとする。

2 内容

夜間部生徒を対象として主に国語総合・古典A・国語表現の授業において「絵本の読み聞かせ」授業を行った。講師（2名）は「とくしまお話を語る会」に依頼した。

3 取組

[使用図書等]

○第1回：9月6日

題名	作者・訳者
富士山うたごよみ	(短歌・文) 俵万智(絵) U. G. サトー
はちみついろのうま	(作) 小風さち(絵) オリガ・ヤクトーヴィチ
ねぶと太郎	民話
光の旅 かげの旅	(作) アン・ジョナス(訳) 内海まお
生きる	(詩) 谷川俊太郎(絵) 岡本よしろう

○第2回：9月2日※台風による臨時休校のため中止

○第3回：10月24日

題名	作者・訳者
やさいのおなか	(作・絵) きうちかつ
くだものなんだ	
ちっちゃなオレンジ色のおうち	アメリカ民話 (訳) 佐藤涼子
パンプキン	(作) ケン・ロビンズ(訳) 千葉茂樹
かぐやひめ	(文) 円地文子 (絵) 秋野不矩
きみの町に星をみているねこはいないかい？	(作・絵) えびなみつる
たんぽぽヘリコプター	(詩) まどみちお(絵) 南塚直子

○第4回：11月28日

題名	作者・訳者
きのこーふわり胞子の舞ー	(写真・文) 埴沙萌
注文の多い料理店	(作) 宮沢賢治(画) 佐藤国男
それほんとう？	(作) 松岡享子(絵) 長新太
いのはなし	語り
イーヨとヤーヨ	(作) ささきまゆ

○第5回：12月13日

題名	作者・訳者
きらきら	(作) 谷川俊太郎(写真) 吉田六郎
つるにようぼう	(作) 矢川澄子(絵) 赤羽末吉
しりとりあそび あか・あお・き	(作・絵) 星川ひろ子 星川治雄

まどからおくりもの	(作・絵)五味太郎
かさじぞう	(作)長崎源之助(絵)箕田源二郎
十二支の話	語り
『わたしのおべんとう』 『ぼくのおべんとう』	(作・絵)スギヤマカナヨ

〔授業風景〕



4 生徒の感想

○私は、子供の頃から本に興味がなく、絵本は文を読まずに絵だけを見て、しかけを楽しんだり、小説は今までまるまる1冊読んだことがないぐらい本が苦手でした。でも、この読み聞かせで絵本を読んでもらっているのを聞いていると、この後どんな展開になって、最期はどうなるのだろうかとすごくわくわくしながら聞くことができました。絵本=子供の本というイメージだったけど、大人が読んでも結構楽しめる物なんだと感じました。

○高校生になると本を読む機会があっても絵本を読むということはほとんどなかったのでとってもいい時間が過ごせました。絵本は小さい子供が読むものと勝手に思っていたのですが、大きくなってから見ると考え方なども変わっているので小さい頃とは違う見え方ができておもしろかったです。私は白黒に光と影の絵本が一番のお気に入りです。

○じっと話を聞くのがとても嫌いな僕ですが、寝たりせずに読み聞かせを聞くことができました。とてもハキハキとしゃべっていたので聞き取りやすかったです。

○ああして本を読み聞かせていただいたのは小学校の頃以来で、その頃の純粋な気持ちや本のあたたかみを思い出させてくれて嬉しく思っています。私のお気に入り野菜のシルエットの本、きのこの胞子の本、『注文の多い料理店』です。名前を当てっこする懐かしさ、胞子を写した写真の美しさ、登場人物のセリフを読み上げる感情豊かな声が印象に残っています。(中略)あの優しい声をもう一度聞けることを楽しみにしています。

○聞きやすくてホッとひと息できる時間でした。子供たちにも読み聞かせをしているということで、あ、このシーンは子供たちはどんな反応をするんだろうと、そんな想像も膨らみました。

○僕は読み聞かせを聞いてとてもおもしろかったです。注文の多い料理店や野菜をあてる本などとても聞いていていい時間を過ごせたなと思います。(中略)高校生活での読み聞かせのことは卒業しても忘れないと思います。

5 成果

初回から絵本の読み聞かせの授業に際して、おおむね好意的ではあるものの受動的でもあった生徒たちだが、授業態度の見取りからは、回を重ねるごとに聞く態度において、意欲の向上が見られ、表情も柔らかくなっていったように見受けられた。授業終了後には、「次の読み聞かせ授業の日を楽しみにしている。」と伝えてくる生徒や、幼い頃に聞き覚えのある絵本をリクエストする生徒も現れるなど、積極的に関わろうとする姿勢を見ることができた。

また、最終回となった12月には学校全体の行事として授業を行ったが、生徒が2人組になって読み聞かせを行う時間では、自らの好みの絵本を楽しげに選び、慣れないながらも講師の先生に習った持ち方で相手の生徒に一生懸命読み聞かせする姿が見られた。普段の国語の時間では、自信のなさから音読を敬遠する生徒も少なからずおり、そのような姿からは生徒の確実な自己肯定感の醸成と表現力の向上を見とることができた。

6 今後の課題

本年度から「絵本の読み聞かせ」授業を実施し、生徒の成長を目の当たりにした。この取組を継続することで生徒たちのさらなる成長につなげたい。そのためには、教科や総合的な学習の時間、特別活動等の年間指導計画の中で「絵本の読み聞かせ」に関わる学習を適切に位置付け、その評価を行うとともに、生徒が自ら絵本を選ぶ機会を設けるなど、積極的に参加する意欲を向上させ、生徒自身が読み聞かせを実施する時間と機会を増やすことが課題である。

③ 名西高等学校定時制課程

○講演会の実施，研修会への参加及び図書を活用

1 目的・ねらい

本校の生徒は，中学校で不登校を経験した者が半数を占め，真面目で大人しいものの，社会性に欠け，自分と異質な者を回避する者も少なくない。その改善を図るため，ソーシャルスキル向上に関する講演を実施し，また教員全員が校外での研修会にも参加し，関連の図書も購入して指導に役立てることとした。

2 内容

ソーシャルスキル向上のための講演を実施した。また，ソーシャルスキル向上支援のための指導力向上を図るため，全教員が校外の研修会に1回以上参加することとし，関連図書を活用した。

3 取組

鳴門教育大学の阿形教授にソーシャルスキル向上と仲間づくりについて講演を依頼した。

みなと高等学園や徳島中央高校主催の各研修会については，資料を全員で共有するなどして日々の指導力向上に取り組んだ。

関連図書については，ホームルーム活動などで活用した。

4 成果

社会性を身に付ける必要性については，今回の講演や進路講演会などを通して，生徒の意識は徐々にではあるが強くなってきている。また，学校行事への参加率が増加し，自分から挨拶ができる生徒や気配りのできる生徒が増えつつある。

5 今後の課題

同学年の生徒とは会話できても，他学年の生徒とうまく会話できなかったり，自分の感情表現や感情のコントロールが十分でない生徒も見られる。このため，研修会や図書から得た知識を一過性のものとせず，工夫を凝らしながら，本校の生徒の現状に合った指導を全員で確立させる必要がある。

④ 池田高等学校定時制課程

○ソーシャルスキルに関する講演会及びコンサート等の実施

1 目的・ねらい

地域の文化的発展に貢献しているシンガーソングライターやダンスチームを招聘し、音楽やダンスを通して郷土について理解を深め、徳島の自然・文化・人のすばらしさや人とつながることの喜びを実感し、生徒に社会技能や豊かな心の醸成を図る。



2 内容

学校行事やホームルーム活動などにおいて、コンサートや体験的な講演会を実施する中で、郷土のすばらしさ、地域や人と関わることの大切さ、コミュニケーションスキル、対人関係スキルなど、社会をたくましく生きていく方法や考え方について学ぶ。

3 取組

- ◇郷土愛や自尊感情を育てるコンサートや人としての生き方や在り方を学ぶ講演会
- ◇変化の激しい現代社会をたくましく生きるための体力・健康増進講座
- ◇教職員による社会的自立に向けたソーシャルスキル指導



4 成果

講演会やコンサートなどを年間を通して3回実施し、ソーシャルスキルの向上や豊かな心の醸成を図る機会を生徒に提供することができた。また、年間を通して教育相談週間を学期に1回設定し、年3回実施するとともに、時宜を捉えて学習状況や生徒生活に関する三者面談を実施し、全職員によるマナー指導についても徹底できた。

教職員アンケートにおいて、「社会自立に必要な事項について十分に指導することができた」と回答した教職員が100%であり、保護者アンケートにおいても、「学校は規範やマナーについて指導してくれる」と回答した保護者は94%と高かった。



校内での絵本の読み聞かせ発表



保育所での絵本の読み聞かせ

5 今後の課題

本校卒業生の中には、人間関係のトラブルや集団の雰囲気になじめないなど、進路先で何らかのつまずきを覚える者も多く、今後もたくましく社会を生き抜く自立した人材育成の必要性を感じる。そのため、特別活動や授業において、話し合いや発表の場面を多く設定し、言語活動を充実するなど、学校教育全体を通して協働的・体験的な活動を推進する中で、より一層、問題解決能力やコミュニケーション能力などの育成を図る必要がある。

これらの活動をより機能的・効果的にするため、大学、企業、地元住民、その他の関係機関と、さらに連携を強化していくことが重要である。

5) 学力向上支援

① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

○放課後支援の実施

1 目的・ねらい

多様な進路を目指す生徒に対する学力向上支援のため、放課後における個に応じたきめ細やかな指導を行う。

2 期間：平成29年1月13日から2月23日までのうちの7日間（1日2時限）

3 対象：3・4年次生 5名

4 指導者：奥村 友理〔鳴門教育大学大学院修士コース修了〕

5 内容

- ・古典文法や漢文句法の習得等、生徒が苦手とする分野の指導
- ・大学受験や日本漢字能力検定や高等学校卒業程度認定試験等資格取得に向けた指導等

6 成果

- ・授業以外の学習に対する動機付けとなり、学習習慣を身に付けることができた。
- ・個別対応により学習生徒の習熟度が上がり、学習意欲が向上した。

7 今後の課題

生徒一人一人の学力差が大きく、進路希望が多岐にわたるため、また、教員に対して、分からないことをその場で指導を求める生徒が多いことから、より充実した個別支援が必要である。

② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○基礎学力の向上を目指す「放課後支援」の実施

1 目的・ねらい

基礎学力の向上を目指すため、高等学校の学習内容の理解に必要な学力の定着を図るとともに、一般常識や人間関係形成能力等の社会生活を営むために必要な力を養い、自ら学ぶ態度を育てることを目標とする。

加えて、高等学校の学習内容の理解に必要な基礎学力が、様々な原因で小・中学校で身に付いていない生徒に対して、学び直しとしての学習を並行して行う。

2 内容

学校設定教科「マルチ基礎」において、義務教育段階の国語・数学を中心に、各自の力にあった教材を用いて自ら学ぶ態度の育成を図る。担任・副担任とともに鳴門教育大学大学院生（臨床心理士養成コース）や支援相談員により、きめ細やかに指導している。

3 取組

「マルチ基礎」は、週1時間1～3年次の生徒全員に対してクラス別に実施している。各クラス10名前後の生徒に対し、4、5名の指導者がほぼマンツーマン形式で机間指導を行っている。

学習指導で注意していることは、できないことの再確認にならないように、「できること」「教えてもらってできるようになること」に気を配り、教材作りを行っている。

また、不登校等を経験した生徒が多いので、学習面だけでなく、意識的に日常生活などの話などに触れることで、関わることやつながることの大切さを重要視している。

鳴門教育大学大学院生（臨床心理士養成コース）10名は、2班に別れ隔週に参加している。放課後にも、体育館で生徒とともに卓球・バドミントン・バスケットボールをしてコミュニケーションを図っている。また、球技大会や奉仕活動（地域のゴミ拾い）などの学校行事にも積極的に参加している。

（授業の様子）



4 成果

担任・副担任だけでなく、チューターの役割を果たす比較的年齢の近い大学院生がいるため、明るい雰囲気での授業が進んでいる。マンツーマンに近い形で指導できるので、わからないものをわからないと言え、学び直しが効果的に行われている。

また、基礎学力の向上だけでなく、将来や進路のことや悩んでいることなどが会話を通して見え、生徒指導にも役立っている。

5 今後の課題

個人差が大きいので、個々に合わせた教材作りが必要である。また、学習を通して自己肯定感や自己有用感を少しでも高めるための教材の工夫も必要である。

また、鳴門教育大学大学院生は授業終了後に駆けつけてくれているため、授業の打ち

合わせなどに十分な時間をとることができない状況である。より良い指導につなげるため、情報交換を充実させる必要がある。

③ 徳島中央高等学校通信制課程

○多様な学習形態の提供による学習支援について

1 通信制課程生徒の実態について

本通信制課程で学ぶ生徒は、高卒資格を目指す生徒、生涯学習を志す生徒、定通併修生徒等、目標をしっかりとって学んでいる。また、いじめ、不登校、問題行動を経験してきた生徒、発達障がいや特別な支援を必要とする生徒等、全日制や定時制では学べないという理由で新・転入学してくる者が多数在籍しているため、多様な生徒が学べる教育環境の整備が必要となっている。特に近年、発達障がいのある生徒や不登校を経験した生徒等、何らかの支援が必要な生徒が多くなってきている。平成28年度の活動生へのアンケートの結果では、約4割が不登校を経験しており、小学校高学年から中学校までほとんど学校に登校できていない生徒も見られる。

入学した生徒が卒業する割合については、新入生が35%前後、転・編入生が入学年度により異なるが50%~70%である。転・編入生者の卒業率が高い理由は、高卒資格取得や卒業後の進路に対しての意欲が高いためであると考えられる。5年生以上在籍している生徒は全体の17%を占めている。仕事との両立で学習時間が確保できない、不登校傾向があり学校に足が向かない等、理由は様々であるが、これらの生徒は卒業に向けて自分のペースで学業に励んでいる。

2 内容

本校通信制課程では、生徒の多様な学びのニーズに対応するため、他の事業も含め、次のような学習形態を提供し、実践を行った。

- ①義務教育内容の定着を図るための学校設定科目（ベーシック英語・国語・数学）開設
- ②学生ボランティア（徳島大学生）による個別指導
- ③NHK高校講座の活用促進
 - 放送内容のリポート紙面への取り入れ
 - 「ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除」制度の活用
- ④スクーリングで使用したデジタルコンテンツのホームページへの掲載
- ⑤学習支援制度による個別指導
- ⑥出張スクーリング

3 取組

①ベーシック科目

定時制課程が実施している学び直しの取組を参考に、英数国の3教科において、高

等学校段階の学習へのスムーズな移行を目指し、義務教育内容の定着を図る学校設定科目を開設した。

②学生ボランティアによる個別指導

特別な支援を必要とする生徒（希望者）に対する学習支援として、学生ボランティアによる学習支援を行った。

③NHK高校講座の活用促進

レポート課題にNHK高校講座の内容と関連した教材を取り入れ、また自学自習を促すため、面接指導時においても高校講座の紹介を行った。

④デジタルコンテンツの活用

数学Ⅰの面接指導時に使用したデジタルコンテンツをホームページ上に掲載し、家庭での復習やその時間欠席した生徒の学習に利用できるようにした。

⑤学習支援制度

生徒への案内物、クラスや科目担任による広報を、年度当初より積極的に行い、活用を促した。

⑥出張スクーリング

県南部、県西部の遠隔地に居住する生徒で、特に近隣地での面接指導を希望する場合において、スクーリングの機会を設けた。

4 成果

①ベーシック科目

ベーシック科目の学習内容は、小・中学校にほとんど登校できていない生徒にとって義務教育での学習から高等学校での学習への準備と練習の役割を果たすことができた。生徒は、基礎・基本を確認しながら、自らの学力に応じ、学習を進めていくことができた。分かる喜びが学習意欲向上につながり、自己肯定感を持つことにつながる要素が大きいと考えられる。

②学生ボランティアによる個別指導

大学生によるピアカウンセリング的なコミュニケーションと細やかな学習指導を行った。結果として苦手な科目学習の理解が進み、対人関係等のソーシャルスキルを高め、未来に対するビジョン構築の一助となった。

③NHK高校講座の活用促進

レポート添付のアンケート結果では、95名の生徒が「レポート課題作成のためにNHK高校講座を視聴した。」と回答した。これは全回答の17.6%にあたる。科目によっては40%近い視聴率のものもあった。学習意欲向上に有効であったと考えられる。

④デジタルコンテンツの活用

ホームページ上のデジタルコンテンツを活用した生徒は、聞き取り調査では数名であった。

⑤学習支援制度

学習支援制度を活用した生徒は延べ168名であった。当初100名以上の活用を目標にしていたが、目標を大きく上回った。また、前期と後期を比較してみると、後期の活用者が多い。この制度が、レポート作成、ひいては自身の学力向上に有効であるとい

う認識が、活用した生徒に芽生えた結果だと思われる。生徒の学習意欲喚起に効果を上げる取組であった。

⑥出張スクーリング

県下唯一の公立通信制課程であり、規定された面接指導を受けるために50Km以上の距離を通学する生徒もいる。県南部及び県西部での面接指導の機会を設けたことにより、こうした生徒にとっての通学における負担が軽減できた。個別指導に重点を置いた面接指導を行っているが、特に本事業でのスクーリングに参加する生徒に対しては、より効果的な個別の対応ができた。不登校傾向の生徒にとっては、本校外に面接指導の場を設けることが、面接指導出席のきっかけとなり、本校での面接指導出席（登校）につながるといった効果もあった。

5 今後の課題

①ベーシック科目

主として新入学生徒を対象に設定された講座であり、入学にあたって教科の学力審査を課していない本校では、生徒の学力面の実態が把握しきれない。そのため、本講座の履修に関しては、本人の希望で決定している。このことから、実質本講座履修が望ましい生徒が履修せずにいる状況が生じる可能性が排除しきれない。履修指導に際し、科目内容の理解促進を含めたきめ細やかな指導が必要である。

②学生ボランティアによる個別指導

後期からの実施となるため、教科によっては利用できないこともある。しかし、質問があっても引っ込み思案なために質問ができない生徒や不登校などのために勉強の仕方が分からなかったり、学習習慣が身に付いていない生徒にとっては、有効な支援方法である。またコミュニケーション面で自信がない生徒にとっては、学習支援以外の面でのソーシャルスキル等を向上させるきっかけにもつながる。来年度以降も継続したい。

③NHK高校講座の活用促進

科目によっては、レポート課題中に取り入れることが難しいことや、講座放送日時とレポート課題作成時期のずれも見られる。しかし、Eテレ等で興味深い番組も多く放送されており、レポートや面接指導をきっかけに、こうした放送を見たという生徒もあり、多様な学習機会の提供には有効な取組であるので、継続する予定である。講座内容（の一部でも）を面接指導の中で紹介する等、方法を模索したい。

④デジタルコンテンツの活用

スクーリングで使用したデジタルコンテンツを利用するには、ソフトが必要であり、より活用しやすい動画の形で掲載した。時間的余裕がない、利用環境がないなどの理由で活用した生徒はほとんどなく、今後継続していくにはより利用しやすいコンテンツの提供が必要である。

⑤学習支援制度

活用した生徒は確実にレポート課題に成果が現れ、意欲向上とつながっている。まだ未活用の生徒に対して活用のきっかけとなるよう、あらゆる機会を通じて、活用を促すことが必要である。

⑥出張スクーリング

県南部や県西部の遠隔地より通学する生徒は減少傾向にあり，そうした事情での本制度の活用生徒数は減ってきたものの，今後も不登校生徒が利用する事例が増えることが予想される。実施場所等を工夫するなど，生徒の実態に応じ継続実施していきたい。

④ 鳴門高等学校定時制課程

○就職試験対応問題集・参考書の活用

1 目的・ねらい

生徒が就職試験を受験する際の，一般常識や適性試験の内容と難易度を把握しておく必要があるため，参考図書を活用した。

2 内容

基礎学力を高め，様々な就職試験に対応できるよう，年間5回実施される基礎学力コンペの参考図書として活用した。

3 取組

本校の生徒は，これまで就職試験を受験する際，なるべく一般常識や5教科などの試験を課されていない，面接のみを課している企業を積極的に受験していた。しかし，今年度は，生徒の希望が多様化し，全日制普通科の生徒と学力で競合する場面が増えている。今後もこの傾向が継続していくことは予想できるため，面接以外の試験を課された場合にも全日制普通科の生徒と対応できる基礎学力の向上が必要となっている。

そのため，今年度より総合的な学習の時間や補習等を活かし，生徒の基礎学力の向上と就職試験での一般常識などの出題傾向等内容把握に向けた取組を進めた。

4 成果

基礎学力の向上と定着に向けた取組が推進された。

5 今後の課題

引き続き，生徒の多様な進路実現のために取り組む必要があるが，放課後等にこの取組に活用できる時間帯によっては，参加可能な生徒とそうでない生徒との間に差が生じることが考えられる。

⑤ 富岡東高等学校定時制課程

○図書の利用

1 目的・ねらい

本校の生徒には、自己有用感や自己肯定感を持っていない者が多く在籍する。その対策として、何らかの資格取得をさせることで、自信を持たせ、それぞれの進学や就職に活かしてしてほしいと考え、図書購入を計画し活用を促す。

2 内容

進学や就職の際の評価につながる実用英語技能検定等に向けた学習のため、参考となる図書の活用を促した。

3 取組

ビジネス文書や簿記、数学検定等の資格取得を目指すよう生徒に呼びかけた。授業が始まる前の時間や放課後の時間を活用して、基礎学力の定着と復習も兼ねて合格に向け指導を行った。

4 成果

検定取得に向けた学習が同時に大学で学ぶ内容と重なるため、大学の授業についていけるのではという自信が芽生えた4年生の生徒がいた。また今回は合格できなかったものの、学習を通じて知識や技術が上達し、次回は必ず取得したいという学力向上に向け意欲が向上した生徒も見られた。

5 今後の課題

チャレンジすれば合格すると思われる生徒もいるので、検定取得の意義を説明し、受験者を増やしていきたい。また自宅学習も取り入れつつ、限られた時間で最大の効果が出るよう、指導方法をさらに改善していく必要がある。

⑥ 池田高等学校定時制課程

○基礎学力講座や絵本の読み聞かせの実施

1 目的・ねらい

学習改善を図る中でこれまでの学習のつまづきを克服するとともに、視聴覚教材などを活かして想像力や表現力を身に付け、基礎的・基本的な学力や学ぶ意欲、問題解決力など、社会で生き抜く力の基盤となる学力の育成を図る。



2 内容

日本漢字能力検定の合格に向けた漢字能力向上講座，社会で実用的な計算力の向上に向けた計算能力向上講座，読解力向上のための読書時間，本を読む楽しみや人に伝える喜びを実感できる絵本の読み聞かせなどを通して，確かな学力を身に付ける。

3 取組

- ◇実社会で生活するために必要とされる漢字力や計算力を高める学力向上講座
- ◇世の中の情報を読み解くための読解力を高める読書時間
- ◇文章や活字に親しみ本のすばらしさを他者と共有するための絵本の読み聞かせ



4 成果

計算力及び漢字能力向上講座，それに連動した計算・漢字テストを年間を通して4回実施し，社会で求められる学力を身に付ける機会を生徒に提供するとともに，基礎学力の定着を確認できる生徒も増加した。また，年間を通して「読書の時間」や特別活動・授業における絵本の読み聞かせの時間を確保することができた。

生徒・保護者アンケートにおいて，「学校は生徒の学力向上に積極的に取り組んでいる」と78%の生徒が回答し，基礎学力講座の満足度も7割を超えた。計算テストの年間平均点も59点と，若干ではあるが前年度より向上した。

5 今後の課題

学力向上講座に対する満足度のさらなる向上を目指し，今後も引き続き，個々の能力や目標に応じた課題を作成し，きめ細やかな指導を継続するとともに，学力の基礎・基本の定着は，社会生活に必要不可欠であり今後もすべての生徒に対して学力向上のための支援を継続する。また，蔵書満足度を向上させるために，生徒の実態に応じた新書を購入などに取り組むとともに，読書意欲の喚起を図り，活字離れにも歯止めを掛けるため，できる限り多くの生徒が絵本の読み聞かせを実施できるように，司書教諭との情報交換など，連携を強化していく必要がある。

⑦ 合同研修会の実施

○パフォーマンス評価，ルーブリックを適切に行うための教員研修の実施

- 1 期 日：平成28年8月29日
- 2 会 場：徳島中央高等学校
- 3 テーマ：「パフォーマンス評価・ルーブリックの目的と意義」
- 4 講 師：鳴門教育大学大学院 高度学校教育実践専攻 教授 川上綾子

5 目的・ねらい

定時制・通信制課程に学ぶ生徒は、不登校を経験している生徒が多く、基礎学力及び社会性が十分身に付いていない場合が多い。また、発達障がい等の何らかの支援を必要としている生徒の割合も一定数認められる。そのため、徳島中央高等学校が実施しているソーシャルスキルトレーニング等をはじめ、数値化して評価することが難しい学習では、どのように考え、どう行動したかを確実に見取り、適切な指導をすることが求められる。

そこで、パフォーマンス評価、ルーブリック等の手法を用いることによって、到達度を見ながら学校での支援・相談体制を充実・深化させることが可能であると考え、パフォーマンス評価についての研修を行い、生徒の思考のプロセスや表現力、複合的な学力を正しく捉えることができるようになることで、個々の生徒に適した指導法を得る手がかりとする。

6 内容

講師から、パフォーマンス評価・ルーブリックの目的・意義、問題点、作成上の注意点、具体例等についての講義を受けた。パフォーマンス課題に対して、実際に小学生が出した解答を、我々がルーブリックを使って評価するワークショップを行い、その児童にふさわしい指導法の検討を行った。

7 取組

研修の内容を受けて、授業の見直し・改善を行った。生徒には評価するポイントを絞り込み、事前に周知した。指導内容と評価する基準を一致させることで、学習の目的がより明確となった。パフォーマンス課題は、実生活と結びつけたものとし、生徒の学習意欲の向上につなげることができた。

8 成果

パフォーマンス評価についての認識が十分でなかった教師も多かったが、研修を通して、パフォーマンス評価を実施することが本校の生徒に有効であることを理解できた。実際にパフォーマンス評価を授業評価に取り入れた教科（*1）にとっては、指導と評価の一体化を意識した授業展開、個々の生徒の学習目標の整理、ルーブリックの作成によって教員間での目標共有や評価の一致、指導法の改善等を図ることができた。

9 今後の課題

パフォーマンス評価は多くの時間と労力を要するため、1学期に1つ程度しか実施できない。その上、答えが決まっている問題に比べ、客観性が低くなりがちであるため、妥当性の確保が必要である。そのため、複数名で検討する必要性が出てくるが、日々の業務の中で、その時間を捻出することが難しい。また、教員間の足並みが十分にそろわず、個々の教員に任せなければならないのが現状である。

また、パフォーマンス評価によって得られた結果を、教員全体で共有するところまではできていない。せっかく得られた結果に対し、十分に検討し、個々の生徒の持つ能力

やつまずきを見取り，有効な指導を実施するまでに至っていない。パフォーマンス評価に対する教員の認識にも差がある。

再度，パフォーマンス評価の意義を確認し，教員全体で協力して取り組んでいく必要がある。

* 1 パフォーマンス課題・ルーブリックの一例

◇「職業基礎A」 課題：取引先に対し，新商品の案内文書を作成する。
(PCによるビジネス文書作成)

	i 言語使用・文書校正能力 (思考・判断・表現)	ii PC操作能力 (技能)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・時期や場面に適した言葉遣いや書式を自ら判断して，使用できる。 ・校正記号を正しく理解し，バランスよく文書を作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なPC操作技術を身に付けている。 ・素速く正確に文書を作成することができる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・見落とし等により，一部間違いが見られるが概ね正しく言語を使用できる。 ・基本的な体裁が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の助けを借りながら文書を完成することができる。 ・アイコンの意味が概ね理解できている。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に言葉を選ぶために，周囲の助けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の助けを借りても，時間内に文書を作成することができない。
0	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の選択ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書を作成しようとしらない。

◇「英会話」 課題：天気予報を見て，旅行へ行くALTにアドバイスを行う。
(インタビューテスト)

	i 情報分析能力 (思考・判断・表現)	ii コミュニケーション能力 (関心・意欲・態度)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の旅行先と日程を聞き取り，天気予報の一覧表を見てその地域の天気や気温を読み取り，持ち物や服装を正しく判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した表現を使い，英語で適切にアドバイスをすることができる。 ・意欲的に取り組んでいる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・一部間違いが見られるが，助けを借りながら，相手の旅行先と日程を聞き取り，助言すべき内容を判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法的な間違いは見られるが，英語で相手に情報を伝えることができる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物や服装を判断するために，周囲の助けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の助言を借り，言葉を繰り返すことしかできない。
0	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報から情報を読み取ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の発言に対し，答えようとしらない。

6) その他

○先進校視察 (山形県立霞城学園高等学校 平成28年12月13日)

(神奈川県立綾瀬西高等学校 平成28年12月14日)

1 山形県立霞城学園高等学校 (阿部 孝 副校長)

(1) 学校概要

平成9年に定時制夜間部と通信制課程の2部で開校され、今年で創立20年目の学校である。平成13年に山形駅に隣接した「霞城セントラルビル」の5階から9階へ移転し、この年の4月に定時制昼間部が開設された。平成25年3月には10階の一部も通信制生徒の学習室として使用されている。定定併修、定通併修も可能な多部制単位制高校で、午前部と午後部、午後部と夜間部での部間併修により3年での卒業も可能となっている。



生徒数は、定時制課程の午前部、午後部、夜間部各40名定員で平成28年5月現在の在籍者数は、午前部105名、午後部100名、夜間部44名の計249名である。通信制は定員が普通科120名、服飾科40名で、5月現在の在籍者数は、普通科698名、服飾科24名の計722名である。

霞城学園高等学校の一番の特色は、駅の改札から歩いて数分のビル内にあることで、単位制であることもあり、自分が受ける授業に間に合うようにエレベーターで行き、自分の受ける授業が終わったら帰るといった気軽さから、登校しやすく感じている生徒もいるとのことであった。

(2) 課題

働くモチベーションが低い生徒の増加や、高校を卒業することが精一杯であるなどの理由から、進路が未決定のまま卒業していく生徒が多く、以前は3割程度が未決定であった。

(3) 平成28年度の実践「定時制・通信制課程における支援・相談活動の構築」

①外部人材（進路アドバイザー及びキャリアカウンセラー）の活用

就職や進学に関する個別相談を進路アドバイザーが担当し、就職面接時や就職後の生活で活用できるソーシャルスキルトレーニング講座をキャリアカウンセラーが主に担当している。これらの取組により、卒業時の進路未決定者が激減した。

②基礎学力向上

通信制では、空き時間を活用した霞城塾と呼ばれる基礎学力向上のための学習支援を行っている。定時制課程でも夜間部では小学校の教材を使っての基礎講座を開設している。

③生涯学習講座の活用

一般向けの生涯学習講座に高校生も受講可能として、ともに学ぶことで学習意欲の

向上を図っている。

(4) 所感

霞城学園高等学校は、ビル内にある学校という立地条件を活かし、単位制の特徴が十分に発揮されている印象である。毎日のショートホームルームや清掃の時間もなく、生徒は自分の履修している授業を受講するために登校している。このため、クラスでの生徒同士のつながりを持ちたくない者は持たないでもすみ、教員とも授業を教えてもらう以外に特に会話をしなくてもすんでしまうとのことであった。

このような学校では、生徒は自主性や自立心が自然と養われ、自己責任のもと、行動できるようになりやすい反面、生徒によっては、霞城学園高等学校が課題としてあげたように卒業はするものの進路は未決定であるとか、楽な方向に流されて卒業に至らない場合も多くなっている。今回説明していただいた進路アドバイザーやキャリアカウンセラーの取組は、学校生活や就職に対してモチベーションがあがっていない本校生徒に対しての指導に、大変参考になるものであった。

2 神奈川県立綾瀬西高等学校（小城 瑞穂 総括教諭）

(1) 学校概要

全校生徒が900余名、1クラス平均35名程度の全日制普通科高校である。発達障がいのある生徒やその疑いのある生徒が多く、クラスに3～5人程度は在籍している。校舎の一角を高齢者デイサービス施設が開設されており、気軽に交流が行える環境である。直線距離およそ2 kmに厚木基地があり、授業中も戦闘機の轟音が鳴り響くことがたびたびある。

(2) 課題

様々な課題を抱えて入学する生徒が多いため、中途退学率が高い。また、障がいやその可能性がある特別な支援や指導が必要な生徒が多く、各クラスに3～5人程度在籍している。これまでも支援を行ってきたが、十分な結果につながっていなかった。

(3) 平成27年度の取組（個々の能力・才能を伸ばす指導）

①一斉指導の工夫

つまづきの多い傾向にある理数系科目を中心に、学習支援員が授業に加わり、机間指導を行いながら全員が授業についてこられるようにサポートしている。また、放課後に学習支援員と教員が協力して、一斉授業では理解することが難しい生徒の個別補習を行っている。

時間割、1日の予定、掲示物などをすべての教室で統一し、視覚的な刺激の少ないように配慮したり、授業者がICTを活用しやすくなるよう、巻き取り式のスクリーンを常備したりと、教室の環境整備を行っている。

②通級による指導

「学習のつまづきが大きい」「コミュニケーションに難しさを抱えている」「発達障

がい等の診断を受けている」といった観点から、担任から通級指導の対象となる生徒をあげてもらい、校内委員会での会議や生徒本人との面談などで慎重に見極めて対象生徒を決定している。(通級による指導は2年生から行っている。平成27年度は2年生2名、3年生5名が対象生徒となっている。)

対象となった生徒は、高等学校学習指導要領に規定する教育課程の基準によらず、特別支援教育の自立活動に相当する学校設定領域を、クラスを離れて8単位履修している。リベラルベーシックという領域では、国語・数学・英語といった教科を通して社会に適應することを目的とした内容で学習している。ソーシャルスタディーと社会福祉体験の領域では、長期休暇中に設定する職場実習を中心に、働くための学習を進めている。



【ソーシャルスタディーの教材】

(4) 所感

綾瀬西高等学校は、平成30年度から制度化される「高等学校における通級指導」のモデル校として文部科学省の指定を受けて取り組んでいる。高等学校での通級指導に疑問の声もある中で、通級指導の形を創っていく苦勞を包み隠さず聞くことが出来た。通級指導が正式に制度化されていないこともあり、対象生徒の自尊心を傷つけないよう配慮しながら進めることや、教科書や前例がない中で授業を創り出すことや、今までに取り組んだこともなかった高等学校の教員に個別の指導計画を立ててもらうことなど特に苦勞したようである。取組が2年を過ぎると、高等学校での特別支援教育の必要性について理解が進み始め、対象生徒は個別の支援を肯定的に捉えているとのことであった。

本校でも、集団での一斉指導に適應できていない生徒が相当数おり、担任や教科担任がかなりの精力をつぎ込んで指導していても、なかなか行動が改善していかないのが現実である。今回の綾瀬西高等学校の通級指導による取組は、それらの生徒の指導改善に向けて、大きなヒントを得ることが出来た。

○成果の普及・広報について

平成28年度 あわ(OUR)教育発表会(平成28年12月26日(月))

- 1 会場 徳島県立総合教育センター
- 2 内容

徳島県内の幼稚園・幼保連携型認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等で、創意工夫を生かした特色ある教育活動に取り組んでいる園や学校等が、その内容をポスターセッションを行い、成果を広く普及する「平成28年度 あわ(OUR)教育発表会」において、徳島中央高校の取組を発表した。

高等学校や特別支援学校の教員の他、県教育委員会の指導主事など約20名の参加者があり、「生徒だけでなく、保護者を巻き込んだ取り組みが必要」「卒業後の支援を見据えた取組が課題」等の意見をいただいた。

【3】 検討会議の概要

第1回 日時：平成28年年6月30日（木）午後3時～4時50分
場所：徳島中央高等学校〔大会議室〕

1 今年度の体制・取組計画について

○事業体制と今後の日程（事務局）

検討会議の位置づけを検討会議設置要綱で確認。今年度の体制として、協力校が新たに3校加わり、県内すべての定時制通信制高校が参加したことを説明。昨年度、検討会議で「生徒一人一人にどのような支援が必要かを読み取り、地域と関わり自己有用感を高めるような支援や生徒が輝けるような支援が必要であること」「卒業後への円滑な移行が必要であること」といった指摘があったことを振り返り、本年度、各校で生徒の実態に応じた支援を考えることになったことを確認した。

○拠点校（徳島中央高等学校）取組計画説明

①特別な支援を必要とする生徒に対する支援

- ・支援相談員制度及び巡回指導員制度の活用
- ・授業のユニバーサルデザイン化に向けた職員研修

②ソーシャルスキル向上支援

- ・「とくしま中央一座」を通じた取組
- ・絵本の読み聞かせ授業での取組

③学力向上支援

- ・基礎学力向上に向けた大学院生による放課後支援
- ・パフォーマンス評価、ルーブリック評価を適切に行うための職員研修

④就労支援

- ・就労に向けた外部講師を招いてのキャリア支援プログラム
- ・学校設定科目「職業基礎A」を系統立てて指導できるテキストづくり

○協力校（鳴門高等学校）取組計画説明

①中学校の学習の見直し

②絵本の読み聞かせ

③生徒のスキルアップの取組

- ・外部講師による危険物取扱者資格取得に向けた講義
- ・オートバイ修理業者によるバイク整備実技講習

○協力校（池田高等学校）取組計画説明

池田高校における課題と強みに基づいた多様な支援の方向性

①生徒理解、教育相談、特別支援にかかる教職員の資質能力の向上

②生徒の自己肯定感、自己有用感の育成

③仲間作り、人間関係作りを基調としたソーシャルスキルの育成

④徳島の教育力を活用することによる未来の人材育成

実施内容

- ・教職員の指導力，資質向上のために特別支援に関する書籍を活用しての校内研修
- ・地域の人，自然文化をテーマとして活動しているシンガーソングライターやダンスチームとコラボした活動
- ・生徒の基礎学力向上や創造力，表現力育成につなげる基礎学力向上講座および保育実習での絵本の読み聞かせ
- ・生徒たちに職業人の基礎基本を伝えることを目的とした，企業見学及びキャリア教育に関する専門家による研修

2 質疑応答・指導助言

A委員 絵本の読み聞かせについての生徒の反応はどうだったか。

鳴門 心を落ち着かせる効果があったと思う。

池田 普段はおとなしくシャイな生徒たちが，読み聞かせに関しては積極的に行っていた。

A委員 絵本の読み聞かせについて，「なぜ行うのか」「何を狙っているのか」を説明する必要がある。絵本の読み聞かせで人間関係が良くなるわけではなく，コミュニケーションスキルがアップするわけではない。聞く力が育つわけでもない。でも，そのとっかかりになるだろう。絵本の読み聞かせを導入として，最終的には相手とどういうふうな話し方をするのかといったところに結びつけていくカリキュラムを作っていくようにしたらよいと思う。

鳴門 以前，講演に来ていただいた講師が「読みっぱなしで，あとはそれぞれが違う捉え方をしたらそれでいい」といった話だったので，解説や説明は一切入れていない。

A委員 絵本を使うことで，生徒の中には小さい頃の親子の体験が回想されて，心が落ち着くといった意味がある。

B委員 取組計画説明の中で自己肯定感の低さが出ていたが，高校生全体に言えることか。

A委員 自己肯定感には自分自身について肯定的に見ているかどうかということと，自分が他者からどんなふうに使われているかといったことの2つがあって，全国的に人の目を気にする自己肯定感が低い傾向がある。

事務局 県の高校生対象意識調査で「自分にはいいところがある」という項目では，全体に比べると定時制の生徒の方が10%ぐらい低い結果が出ている。学年で見ると全日制は1年生と2年生で伸びは見られないが，定時制は1年生より2年生で伸びている。

C委員 池田高校の就職率が100%とあるが，業種と雇用の形を教えてほしい。

池田 6名希望して6名ともに就職できた。雇用の形態は全員が正社員だった。業種は製造，事務，販売だった。本校では早期の離職率が30%程度でそれが課題となっており，販売に就いた生徒は辞めてしまった。進路指導主事が週2回ハローワークに通っているが，西の方は人が意外と足りていない様子で，アルバイトや就職の希望を叶えられている。

C委員 「とくしま中央一座」での取組で，ソーシャルスキルプログラムをどのように導入されようとしているのか，教えてほしい。

A委員 中央一座は中央高校の強みであり，これを活かして何かのスキルの習得やスキル

アップを狙えないかと考えている。人形劇を発表して終わりというのではなく、準備の段階から、材料決めや材料を完成させていく間に話し合うのを、一つのワークシートみたいな形で文章化できたり、お互いに話し合っている場面を指導案のような形でプログラム化していけるといいと思っている。一つの発表の劇ができあがって、老人施設や保育園などに行ってみせるとき、相手に応じてどうしゃべったらいいのか、生徒どうしで考えるようなワークシートを作ってあげて、お互いに検討し合っというのをプログラム化して、それが一つのモデルとして、絵本の読み聞かせなどに汎用できるものができたらいいなと思っている。

D委員 離職の問題や就職後に不安が残るといった話があったが、その原因はなにか。

鳴門 コミュニケーション能力が問題で辞めた生徒がいた。その生徒は在学中、皆勤で学校には来たけど、ほとんど人としゃべらずにいた。就職面接の練習でいろいろな先生とちょっとはしゃべれるようになり、職種も製造だったのでいけるかと思ったがだめだった。他に、就職してから、自分の考えていた職業とは違うとって辞めた生徒もいた。現在、鳴門ハローワークを中心に、職業ガイダンスを行っている。在学中にバイト経験のある子は続くということから、進路主事は生徒にバイトを勧めている。

池田 本校卒業生の離職する理由としては、人間関係の問題がほとんどである。教員は生徒を支援したり、寄り添ったりすべきだと思うが、生徒に対して優しすぎたり、支援しすぎたりすることで生徒が弱くなり、就職後の人間関係の問題が出てくるといった意見もある。

徳科技 離職の原因となっているのは仕事内容というよりも人間関係の問題で、生徒個々に応じていろんな工夫をしながら、できるだけ改善しようと指導しているけど、なかなか完全にはできないのが現状。生徒に対する支援は当然必要だけど、社会に出たら支援が無い部分も多々あるので、支援しながら、自立もさせながらというのが大事と思う。

富東 昨年度の就職者2名のうち1名が離職している。理由は人間関係だったが、一概にコミュニケーション能力の無さが原因とは言いがたい。生徒の育ってきた環境や保護者の意向、兄弟関係など様々な要因が絡み合ってなかなか続かない。ちょっとでもサポートしていくのが学校の役目ではあるが、4年間の関わりでの限界を感じる。

名西 離職したり、進学した学校を辞めたりする生徒の原因はやっぱり人間関係。学校で優しくされて、次の段階では厳しく言われると嫌になってしまう。本校でも優しいばかりでは駄目で、厳しさと優しさの折り合いをどこでつけるかという話が出てきている。

中央昼 昨年度縁故就職も含め25名が就職している。そのうちの2名が4月に離職した。1名は職場の上司に恫喝され、体に異変を感じて行けなくなった。もう一人は在学中、進路室に全く姿を見せず、かろうじて卒業して、卒業間近にハローワークの残っている求人で就職したものの1週間で辞めてしまった。どちらも辞めてはしまったが、関わって手をさしのべて、寄り添っていった生徒の方が強いと思う。「しんどいときにはいつでも進路室に来いよ」といったバックアップ体制が生徒に勇気や働く原動力になっていく。とことん関わることで、厳しい面も教えることができる。

中央夜 このところの正規雇用就職者で離職したという話は聞かない。中央夜間部も他の定時制と同様、生徒に寄り添う形で卒業まで一緒に歩んでいる。一緒に考えて、一緒に頑張って就職した生徒は、辞める前に相談に来てくれるだろうし、できるだけ辞めずに頑張っていけるものと考えている。

中央通 通信制は高校卒業を目標にしている人がほとんど。就職は昨年度4名で、1名はスクーリングの日以外働きに行ったが、すぐに辞め、また受け直して、また辞めと繰り返している。そういった経験の中で少しずつは社会性が身につけているように思う。

B委員 うちの会社の離職者で、他の会社から引き抜きにあって辞めたケースがある。その他、とりあえず就職したけど本当にやりたかった仕事をやっぱりやりたいという理由で辞める場合と、皆さんから出ていたコミュニケーションの問題で辞める場合がある。企業全体の話として、サービス産業化が進んでいて、製造業であってもコミュニケーションスキルは大事。コミュニケーションスキルによって高付加価値が作られるので、高収益を上げるためにも大切になっている。我々も勉強会を開いて、話し合う機会を持っている。

その勉強会の中で、高卒求人をどうやって採ったらいいかわからないという声も有り、高校へ求人票が出せるようにレクチャーしている。今度、ここで話し合ったことも報告したいと思う。この会が、学校側がやっていることと企業側がやっていることをつなぐような役割になればと思う。

E委員 離職した後のサポートは誰がどんなふうに行っているのか。

県教委 学校が相談に乗ることもあるが就職を斡旋することはできないシステムになっている。サポートステーションを紹介することはできる。

C委員 一般的に離職した人で、学校に相談に行けない子はどこにも相談に行けない。

E委員 現状で、離職後にどこにも相談に行かず、そのままになっている人は、どこにどれぐらいいるといったデータは無いのか。

鳴門 進学なら浪人した場合、必ず学校に調査書を書いてもらいに來るので把握できるが、就職して学校をいったん離れてしまうと、自分で履歴書を書いたり、ハローワークに行ったりするので、つかみづらい。

E委員 議論の中で、学校にいる間は手厚くサポートするが、社会に出るとなかなか難しいといった話があったが、卒業後のサポート体制をもうちょっと段階的にすることはできないものだろうか。せめて、学校、サポートステーション、ハローワークのあたりで、離職してそのままどこにも行かないでいる人の状況を、正確に把握するような体制をとるべきだと思う。

第2回 日時：平成28年9月23日（金）午後2時～3時50分
場所：あわぎんホール 4階〔第5会議室〕

1 徳島県高等学校定時制通信制教育連盟美術作品展について

○作品展の見学

○作品展についての質疑

各委員から展示作品の応募の仕方や広報といった運営に関する質問があり、各校の作品展についての取組状況や、事務局校から広報の仕方や見学者の状況等説明があった。また、この作品展の意義についての質問があり、事務局校から生徒たちの達成感や作品製作時における仲間と協働することによって、人間関係形成能力の向上につながるなどが意義であるといった説明があった。

2 多様な学習を支援する高等学校の推進事業の進捗状況の説明と協議

○徳島中央高校の進捗状況

①「とくしま中央一座」を通じての取組

活動のプログラム化 (鳴門教育大学 小坂浩嗣氏)

②学校設定科目「職業基礎A」の教材作り

一学期：日常生活で知っておいた方がいいことなどの生活スキルの学習

二学期：働く上で知っておいた方がいいことなどのビジネスマナーの学習

③教員の研修

8月：パフォーマンス評価 (鳴門教育大学 川上綾子氏)

10月：授業のユニバーサルデザイン化 (徳島県立総合教育センター 大久保秀昭氏)

12月：生徒理解 (徳島文理大学大学院 三橋謙一郎氏)

○「とくしま中央一座」を通じての取組のプログラム化についての説明 (小坂氏)

ソーシャルスキルといえれば人とのつきあい方や、就職するときの挨拶の仕方などのマナー向上といった具体的なところだろうが、その手前の、自分を知り他者を知ることのスキルを学ぶことが今回の大きな目的である。さらには、思いやる心の育成につなげようと考えている。思いやる心は、自分自身と他者へ向く二つの方向性から方法を考えている。つまり、自分の心の中を見つめるインサイドワークと他者の気持ちをくみ取るアウトサイドワークを行い、これを分かち合うすなわちシェアリング法を取り入れたらと考えている。「とくしま中央一座」の取組は以前から、個人でのワークとグループでのワークとがうまく回って、自分を知ったり他者を知ったりして、思いやりの心を育てている。シナリオを創ったり、人形を作ったり、人形を動かしたりといった個人ワークでは、修得・活用・探究を個人の中で回している。これを仲間が違う役割で、違う人形を使って活動しているので、自分の考えたことを共有し合うグループワークでは、体験・観察・分析・仮説化を回していく形になる。このような実践をワークシートを使用することでプログラム化しようと考えている。思いやる心が育ったかどうかを検証する方法としては、ワークシートの記述を分析する定質的な分析と、自尊感情を問うアンケートの分析による定量的な分析の2つを考えている。

3 質疑応答

A委員 人形劇の上演をした後、聴衆からの感想等を生徒にフィードバックしているのか。
中央昼 文化祭の時には聴衆にアンケートを書いてもらっているもので、それを生徒たちにフィードバックしている。外部上演では保育園では園児と、障がい者施設では障がいのある人と、高齢者施設では高齢者と交流会をしている。いろんな立場、年齢の人と交流することでソーシャルスキルを磨くことにつながっていた。

第3回 日時：平成29年2月9日（木）午後3時～4時50分 場所：徳島中央高等学校 〔大会議室〕

1 本年度の取組と次年度の取組について

拠点校及び協力校より本年度の取組について報告を行われた後、拠点校から次年度の取組予定についての説明が行われた。（本年度の取組については本報告書他項参照）次年度は、昼間部で一斉指導ではなかなか効果が上がらない生徒たちに対して、学校生活全般に適応できるように支援相談員を中心に取組を強化していくこと、夜間部の「職業基礎A」のオリジナル教材を他校にも広げていくこと、「とくしま中央一座」の取組からのソーシャルスキルトレーニングを確立していくことの3点について予定している説明があった。

2 指導助言

A委員 この事業の就労支援やソーシャルスキル向上支援の取組として、学校に来るのが楽しくなるようなことや、将来の目標が持てるような働きかけがあるといいと思う。また、自分を客観視できず、進路を考えるとときに自分の適性に合わない選択をする生徒がいるが、高校段階では現実的な進路選択ができるようなことも大事だと感じた。

B委員 徳島中央高校は、多方面にわたり素晴らしい取組をしているが、あと一つ、生徒の問題に応じて医療機関や福祉機関につないだり、福祉制度の利用を適切に支援したりする「ケースワーカー」がいるとさらに良くなると思った。

C委員 アルバイトをしている生徒については、アルバイト先と連携して就労の仕方を学校も支援すると一つの強みになると思う。また、定時制高校には少数だが、放課後等デイサービスという福祉サービスを利用している生徒がいる。学校と事業所が連携をとることでよりよい支援につながると思う。

D委員 新入社員に会社で働く理由として大事なことを聞くと、一番は「雰囲気」だった。確かに雰囲気が悪い会社だと早期での離職率がすごく高くなるし、営業の観点からも売り上げに悪影響を与える。現代は「効率」よりも「雰囲気」が大切だ。社員教育で、社員の個性を尊重しながらも、規律等を守らせるといった指導をバランス良く行うことを心がけている。厳しく指導することはあまり効果がない。

E委員 各校の取組で、どの取組が効果があるのかを客観的に調べるために4月と12月ぐ

らいに自己有用感や意欲や自発性や忍耐力など、知りたいことに関するアンケートを採ったらどうか。データをきちんと採ることで毎年毎年発展していくことができると思う。

「とくしま中央一座」の取組は他校にも広がるといいと思った。

F 委員 3年目の来年度は、そろそろ芽を出さないと。各学校は何か一つに力を入れた方がいいと思う。生徒対象の取組にしても、教員の研修会にしても、何のためにしているのかがわからないといけない。自分たちのやっていることを自分たちで振り返りながら進めていくことを提案する。

【4】平成28年度の成果と今後に向けて

就労支援・ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援等の複合的効果が考えられ、本県独自調査「生徒の意識等に関わる調査」（毎年7～8月実施 2月結果公表）平成28年度結果での自己有用感や社会参画に関わる項目「自分には良いところがある」・「人の役に立ちたい」において検証を行った。依然として全日制課程より低い状況にあるが、追跡の比較（前1年と現2年）では、「自分には良いところがある」が全日制課程が6ポイント上昇したのに対して、定時制課程は3ポイント減少している。「人の役に立ちたい」では全日制課程10ポイント、定時制課程9ポイントと同程度上昇している。経年の比較（1年・2年）では、特に定時制課程2年での「人の役に立ちたい」が20ポイント上昇と大きく伸びている点が評価でき、平成27年度から取り組んでいる本事業での支援の効果がうかがえることから、本年度の主な取組内容とその成果を次に詳述する。

（※①～④のうち、協力校該当部分については文末に校名を記した。）

①「つなぐ」支援体制の構築

教頭による連絡会、検討会議で役割を分担し、情報共有と事例検討、事業執行に係る指導評価を行った。特に検討会議からは、定通教育の実践内容の積極的な広報と、就労支援の充実（早期離職対策を含む）等の指摘を受け、次年度の取組計画に反映させた。また、協力校が県内の全定時制課程となったことから、教頭会を活用することで、連絡会の開催回数を2回から5回へと増加させ、緊密な情報交換を図ることができた。

このほか、共通の課題に対する教員研修会（特別支援教育、学習評価、ソーシャルスキル等）を合同で実施し、情報交換や情報共有に役立てた。

②特別な支援を必要とする生徒への支援

支援相談員の活用数は、拠点校・協力校ともに増加した。昨年度同様、支援が就職につながった例、資格取得への意欲向上につながった例等が認められた。特に拠点校通信制課程生徒に対する支援が、昨年度から充実され、登校日の少ない生徒に対しても積極的な支援を働きかけた。

特別な支援を必要とする生徒に対するケース会議では、各授業での様子を確認するとともに、今後の支援について話し合い共通理解を図ることにより、一貫した指導を行うことができた。また支援学校の巡回相談員に依頼し授業参観をしてもらいアドバイスを受けることができたことは、その後の指導に有効であった。

③就労支援

働くイメージを具体的に描かせるため、外部講師としてキャリアコンサルタントを招聘し、2・3年次の早い段階から就職に向けての意識を高めた。また、生徒の実態に応じたオリジナル教材を作成し、社会に出たときに必要な職業観や就業体験に向けた心構えを養った。今後は、机上で学習した知識や技術を社会で実践させていく必要を感じた。なお、夜間部カフェ運営の中心となっていた生徒が平成27年度で卒業したため、校内就労体験の実施は出来なかったが、平成29年度のカフェ運営に向けた生徒の意欲醸成を図ることができた。

外部講師による「バイク整備実技講習」や「危険物資格取得講習」を実施し、勤労観の育成と、就職にあたっての選択肢拡大をはかることができた。（鳴門高校）

キャリア教育充実の視点から、定時制高校を卒業して会社経営を行う企業家による進路講演会を実施し、生徒のキャリアプランニング能力の向上を図ることができた。(名西高校)

④ソーシャルスキル向上支援

「とくしま中央一座」で「人形劇」や「絵本の読み聞かせ」を文化祭を皮切りに、保育園や障がい者施設で上演会を行い、芸術的表現活動を通して自らの自信を取り戻し、周囲から評価を受け感謝されることで達成感を得させることができた。また、この活動について、毎時活動後に「振り返りシート」を活用したアンケートを実施し、分析から「ソーシャルスキルが身に付いた」という結果が認められた。

地域の文化的発展に貢献している「シンガーソングライター」や「ダンスチーム」との交流を通して、郷土を愛し、社会に参画する意識を向上させ、表現活動を通じた郷土愛や自尊感情の醸成につながった。(池田高校)

⑤学力向上支援

放課後支援として、難易度の高い国公立大学志望に対する生徒に対する支援や基礎学力の向上を図る支援を行うため、個別指導を行い、学習習慣が身に付くとともに、学習意欲・学力の向上が図られた。

各種検定の資格取得を目指した書籍活用や講座を開設し、合格に向けた学習を行うことで確かな学力を身に付けさせるとともに、検定に合格することで就職や進学に活かすことができた。(富岡東高校、徳島科学技術高校)

⑥成果の普及・広報

機会を捉えて、県内定時制・通信制高校の生徒支援について広報を行った。とくに広く県民、教育関係者にむけた「あわ教育発表会」では、徳島中央高校による研究発表のほか、協力校である池田高校定時制課程生徒が全体発表を行うことができた。特に当該生徒が不登校であった中学校の関係者からは「大きな舞台で発表ができるようになって、中学校での姿からは想像がつかない。」といった声が寄せられるほどであった。今後も、特別な支援を必要とする生徒に対する支援、学力向上支援・ソーシャルスキル向上支援について各校が連携して更なる充実・深化を図り、高校卒業を見据えた就労・進学支援を支える各支援に取り組む予定である。

特に平成29年度は支援体制の汎用化と全定時制・通信制課程で活用可能な各教科等における行動による評価（パフォーマンス評価、ルーブリック評価等）が可能な場面における評価規準例を作成し、生徒の学習意欲伸長の把握に努める予定である。

平成29年度 「生徒の未来を「つなぐ」推進プロジェクト」 事業計画 (案)

平成28年度までの成果と課題 (○成果 ●課題)

- 支援相談員との関わりの中から、勉学・就労に向けてチャレンジする生徒が増加
例 資格取得 従来と異なる企業への就職内定 等
- とくしま中央一座の取組から、生徒の自己有用感向上
- 「絵本の読み聞かせ」(ソーシャルスキル向上支援・学力向上支援)活用校の増加
- ルーブリック等、数値化されない意欲や自発性等を見とる評価に向けた教員研修の合同実施
- 「つなぐ」支援体制構築のための情報共有の深化
- 定時制通信制課程における実践の普及

平成29年度の計画

平成28年度までの成果と課題を踏まえ、多様な支援の中でも、高校卒業後を見据えた就労支援に重点を置く(地域を支える人材育成)とともに、多様な支援の成果の普及にむけたテキスト作成、自己有用感向上を捉えるためのルーブリック等評価方法の改善に取り組む。

(○改変 ◎継続 ☆新規)

- ①「つなぐ」支援体制の構築
 - 検討会議の開催 (5月, 2月)
 - ◎運営委員会の開催 (定通教頭会(年6回)の活用)
- ②特別な支援を必要とする生徒に対する支援
 - ◎徳島県高等学校定時制通信制課程支援相談員の活用(テレビ会議システムの活用 等)
 - ☆外部機関との連携事例の共有
- ③就労支援
 - ◎生徒対象講座の実施 (ビジネスマナー, 資格取得 等)
 - 県内定時制通信制課程生徒対象の事業場見学・体験や就農体験
 - ◎教職員による就業先訪問
- ④ソーシャルスキル向上支援
 - ◎定時制通信制課程向けソーシャルスキルテキスト作成
 - ◎絵本の読み聞かせ指導 とくしま中央一座 夜間部カフェ
 - ◎学習評価教職員研修
- ⑤学力向上支援
 - ◎放課後支援(大学院生等) モジュール学習 学校設定教科
 - ◎学習評価教職員研修(再掲)
- ⑥成果の普及・広報
 - ◎報告書・ソーシャルスキルテキスト(再掲)の作成 HPの活用
 - ☆報告会(高等学校教育研究会定時制通信制教育部会を兼ねる)の実施
(全日制課程に案内し, 定時制通信制課程の取組を紹介)
 - ☆定時制通信制課程美術作品展優秀作品の合同展示

